

社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート「キャリアガイダンス」合同調査

「高校生と保護者の 進路に関する意識調査」

「自分の進路を考えると不安になる」高校生が44%
一方、保護者のスタンスは「じっくり見守る」7割、「本人に任せている」6割
「将来の夢」「将来の生き方」や「保護者自身の話」を親子でしていく必要性

社団法人全国高等学校PTA連合会

会長 渡邊綾子

進路対策委員会委員長 蓮沼俊之

株式会社リクルート

執行役員・進学情報ディビジョン長 漆崎 博之

雇用形態の変容と労働観の変化。無業者増加問題をはじめ、若者への職業観育成指導はいま日本が取り組むべき大きな課題となっています。行政、学校教育はむろんですが、若者にとってもっとも身近な大人である「保護者」ができることはなんでしょうか。進路に関する親と子のコミュニケーションのあり方と、大人ができる高校生のよりよい進路選択へのサポートを探りたい。社団法人全国高等学校PTA連合会と株式会社リクルートは、全国の高校3年生をもつ保護者とその子どもに対して、コミュニケーションの実態とさまざまな進路観について問うアンケート調査を実施しました。その分析結果をまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

調査結果サマリー

「自分の進路を考えると不安になる」高校生が44%(p26)、将来働くことに「気がかりなことがある」高校生は43%(p24)、さらに「未来社会は好ましくない」と考える高校生は6割近くに上る(p30)。「力がないと生き残れないかもしれない」とのフリーコメントに象徴されるとおり、厳しい経済情勢と雇用環境に、高校生も将来への不安を募らせていることがわかる。「なりたい職業ランキング」で、男子1位が「教師」、女子1位が「保育士・幼稚園教諭」と堅実さを増しているのも、その表れかもしれない(p19)。

では、そんな高校生たちに対して、保護者は何ができるだろうか？

現状では、親子のコミュニケーションは取られているものの(親と進路の話をしている高校生は8割以上 p4)、「好きにきなさい」「自分で決めなさい」とのスタンスが目立つ(p7)。が、高校生は必ずしもそれに満足していない。進路選択の際、親に関わってほしい高校生は7割強もいるのだ(p10)。

また、「将来の夢」「将来の生き方」など、先々の大きなテーマについてコミュニケーションしている高校生ほど、進路について考えることを「楽しい」と回答している(p27)。保護者の側も、8割以上が「ジョブシャドウ(子供たちに自分の職場や仕事ぶりを見学させること)」のような機会を大切だと考えている(p23)。

「子どもの進路が決まるまで、じっくり見守る」(7割 p28)というスタンスから一歩踏み出し、自らの進路観や仕事について率直に伝えることが、高校生に前向きな進路選択を実現するサポートになるのではないだろうか。それは保護者に限らず、大人全員の役割と言えるかもしれない。

本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

(株)リクルート 広報室

キャリアガイダンス編集部

出版・印刷物等へデータ転載する際には、「(社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート調べ」と明記していただきますようお願い申し上げます。

この調査結果については、本日発行のキャリア教育専門誌「キャリアガイダンス No.3」(リクルート)にも掲載しています。

主な内容

調査概要..... p3

・親子コミュニケーション

- 1. 進路に関する親子の会話量 進路について保護者と「話をする」という高校生は8割超..... p4
- 2. 進路に関する保護者の認知度 子どもの進路に対する考えを「よく知っている」という保護者は6割..... p5
- 3. 進路に関する親子の会話内容 1位は「卒業後の具体的な進路」、次いで「将来の職業」..... p6
- 4. 進路の話で保護者がよく使う言葉 決まり文句は「好きにしろ」「自分で決めろ」と子ども任せ..... p7
- 5. 進路の話をするときの保護者のスタンス 「導く」「従わせようとする」親はたったの6%..... p8
- 6. 進路選択における保護者への信頼度 保護者は「頼りになる」という高校生が7割..... p9
- 7. 進路選択の際の保護者への関与希望 「保護者に関わってほしい」高校生は7割強..... p10

・進路情報源

- 1. 進路選択の相談相手 「母親」が8割と最多。影薄い？「父親」。男子で3位、女子で4位..... p11
- 2. 進路選択に影響を与える人(もの) ここでも「母親」が最上位。「何からも影響を受けていない」が2割..... p12
- 3. 保護者の進路情報入手方法 1位は子どもの「担任の先生」、次いで進学情報誌..... p13
- 4. 進学にあたって必要としている情報 高校生は「学部・学科の情報」、保護者は「職業との関連」..... p14

・進路選択理由

- 1. 希望進路 保護者の12.0%が「子どもが希望する進路なら何でもいい」..... p15
- 2. 進学に際しての価値観 「家計に負担をかけない進学」「学費の安い学校」希望が7割前後も..... p16
- 3. 進学を希望する理由 保護者の最大の理由は「本人も希望している」..... p17
- 4. 就職を希望する理由 「経済的に厳しい」「自立してほしい」と子どもに就職を望む親は3割強..... p18

・職業観

- 1. 高校生になりたい職業 男子の1位は「教師」、女子は「保育士・幼稚園教諭」..... p19
- 2. 高校生がなりたくない職業 男子1位「サラリーマン」、2位「教師」、女子1位「教師」、2位「フリーター」..... p20
- 3. 保護者が子どもに望む職業 6割は「子どもが希望する進路なら何でもよい」..... p21
- 4. 保護者の職業の認知度 「知っている」高校生は9割。一方父親の2割弱は「仕事のことを話さない」..... p22
- 5. ジョブシャドウへの賛成度 子どもに親の仕事を見せることは「大切」と考える保護者は8割以上..... p23
- 6. 働くことへの気がかり 将来働くことに「気がかりなことがある」高校生は4割超..... p24
- 7. 保護者のフリーター観 基本反対。「やりたいこと」のためなら容認の傾向も..... p25

・進路観

- 1. 進路のことを考えるときの気持ち 自分の進路を考えると「不安になる」高校生が44%..... p26
- 2. 進路を考えるとときの気持ちと保護者との会話内容の関係
保護者と先々の大きなテーマを話し合っている高校生は進路を考えると「楽しい」気持ちに..... p27
- 3. 子どもの進路に対する保護者の考え方 「じっくり見守る」が7割で最多。次いで「主体性に任せる」..... p28

・未来社会観

- 1. 実力主義社会に対する意識 高校生、保護者ともに「個人の力が問われる時代」を認識..... p29
- 2. 未来社会は好ましいか 「好ましくない」高校生の6割、保護者の7割が回答..... p30

・人生観

- 1. 人生において大切にしたいもの 高校生の1位は「家族・友人」、保護者1位は「健康」..... p31
- 2. 夢を実現するために必要なもの 高校生、保護者ともに「個人の努力」が最重要と回答..... p32

調査概要

調査実施者：社団法人全国高等学校PTA連合会 / 株式会社リクルート

調査対象：全国の高校3年生を持つ保護者とその子ども2000組（全都道府県市高等学校PTA連合会50組織、各40組）

調査期間：平成15年7月10日～7月28日

調査方法：郵送法

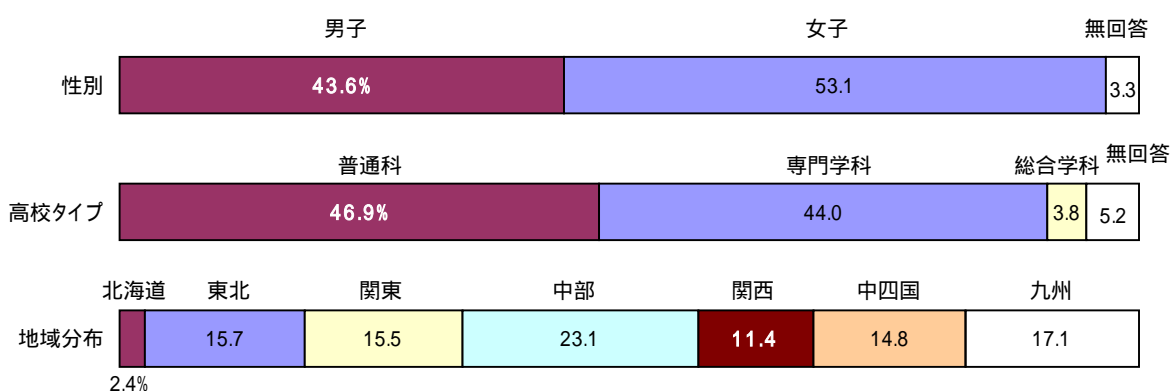
回収数：高校生496、保護者394

回収率：高校生24.8%、保護者19.7%

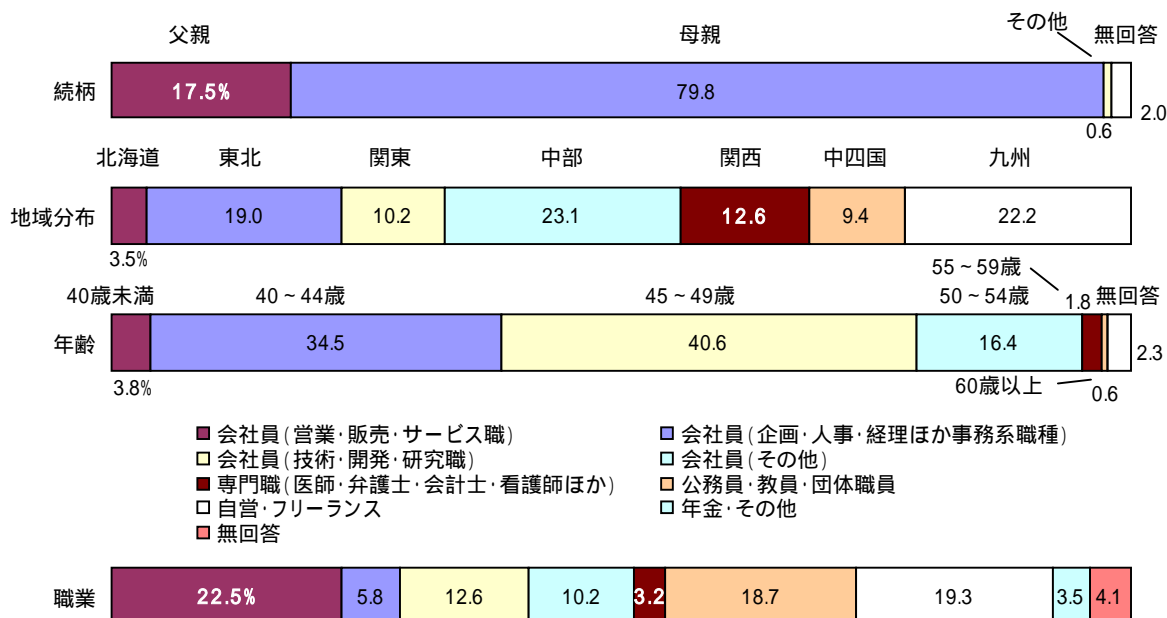
サンプル数：高校生420、保護者342（うち親子ペア316）

回答者のプロフィール

高校生



保護者



・親子コミュニケーション

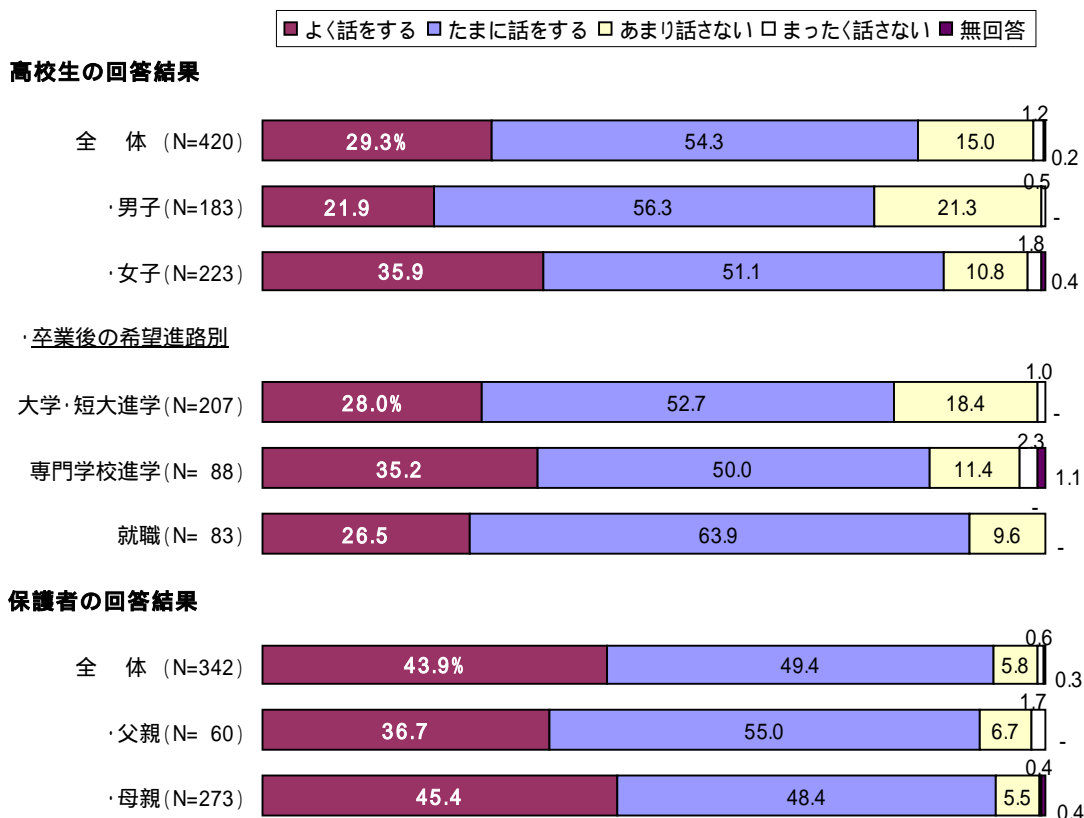
1. 進路に関する親子の会話量

進路について保護者と「話をする」という高校生は8割超。
保護者は「よく話をする」だけで43.9%。高校生(29.3%)と14.6ポイントのギャップ。

高校卒業後の進路について、高校3年生とその保護者はどの程度話をしているのか。まず、高校生の回答結果をみると、「よく話をする」と答えた生徒は29.3%。「たまに話をする」の割合(54.3%)を加えると83.6%に達する。男女別にみると、女子のほうが話をしている。35.9%が「よく話をする」、51.1%が「たまに話をする」と回答しており、合計値は87.0%となる。親とはあまり話さないように思われている高校生だが、高校3年の時期ともなると、少なくとも進路についてはある程度は話をしているようだ。

一方、保護者に聞くと、子どもたち以上に会話をしているという回答が返ってきた。「よく話をする」という人だけで43.9%。高校生の回答を14.6ポイントも上回る。「たまに話をしている」を加えると93.3%と9割を超える。また、父親より母親のほうが「話をする」と回答している。

Q. 進路に関して子どもと保護者は話しているか



2. 進路に関する保護者の認知度

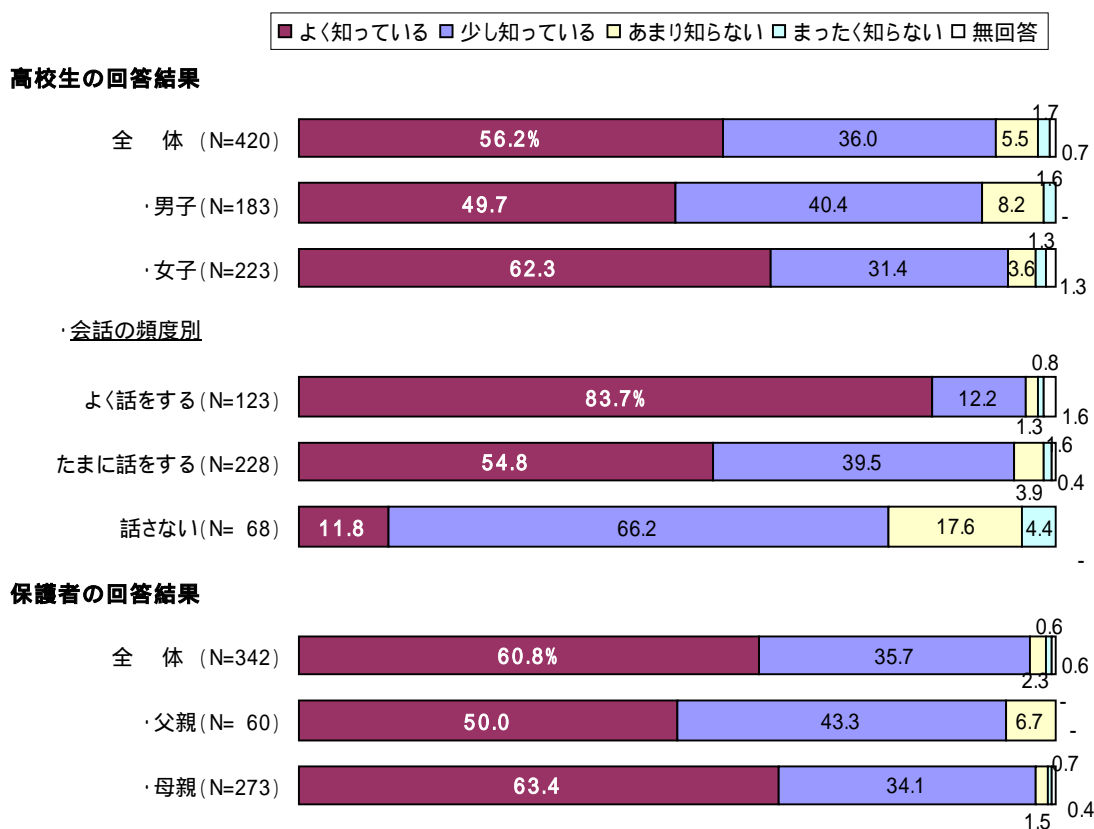
子どもの進路に対する考えを「よく知っている」という保護者が6割。
親とよく話している高校生ほど、(保護者が)「よく知っている」割合は高い。

子どもが希望している進路についても、保護者の多くはある程度把握しているようだ。高校生に対して「保護者の方はあなたの希望進路や、進路に対するあなたの考えを知っていますか」と聞くと、56.2%が「よく知っている」、36.0%が「少し知っている」と回答した。なかでも女子は62.3%までが「よく知っている」と答えた。

保護者との会話の頻度別にみると、当然のことながら、よく話しているほど、保護者は子どもの進路希望を知っていると思われる。「(保護者と)よく話をする」という高校生の83.7%までが、保護者は自分の希望進路を「よく知っている」と回答した。逆に「あまり話さない、まったく話さない」というケースではその割合は11.8%にとどまっている。

一方、保護者に対しても「子どもの希望進路や、進路に対するお子さんの考えを知っていますか」と聞くと、60.8%が「よく知っている」、35.7%が「少し知っている」と回答した。高校生の回答結果と大きな食い違いはない。ここでも母親のほうが父親よりも「知っている」と回答している。

Q. 子どもの進路希望を保護者は知っているのか

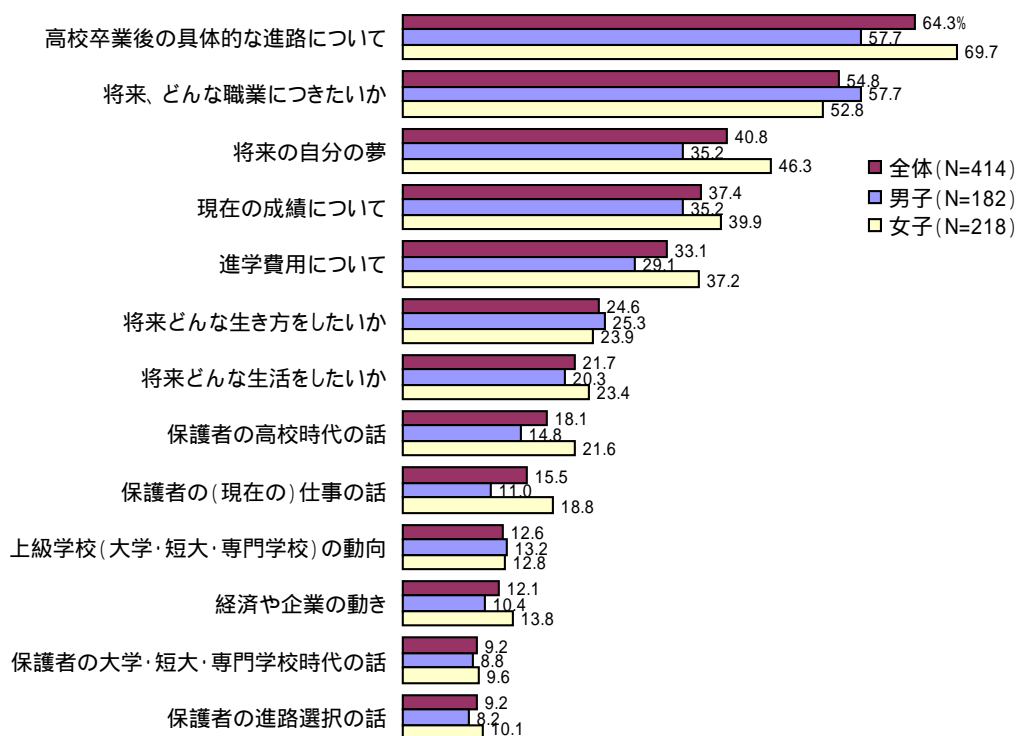


3. 進路に関する親子の会話内容

1位は「卒業後の具体的な進路」。次いで「将来の職業」「将来の夢」、
保護者といろいろなことを話し合っているのは「女子」。

保護者との会話の中身を聞いたところ、最も多かったのは「高校卒業後の具体的な進路について」の64.3%。以下、「将来、どんな職業につきたいか」「将来の自分の夢」「現在の成績について」などが続く。男女別にみると、ごく一部の項目を除き、ほとんどの項目で女子の数値が男子を上回っていることがわかる。女子のほうがさまざまなことについて保護者に相談しているといえよう。

Q. 進路に関して保護者とどんな会話をしているのか(複数回答)



4. 進路の話で保護者がよく使う言葉

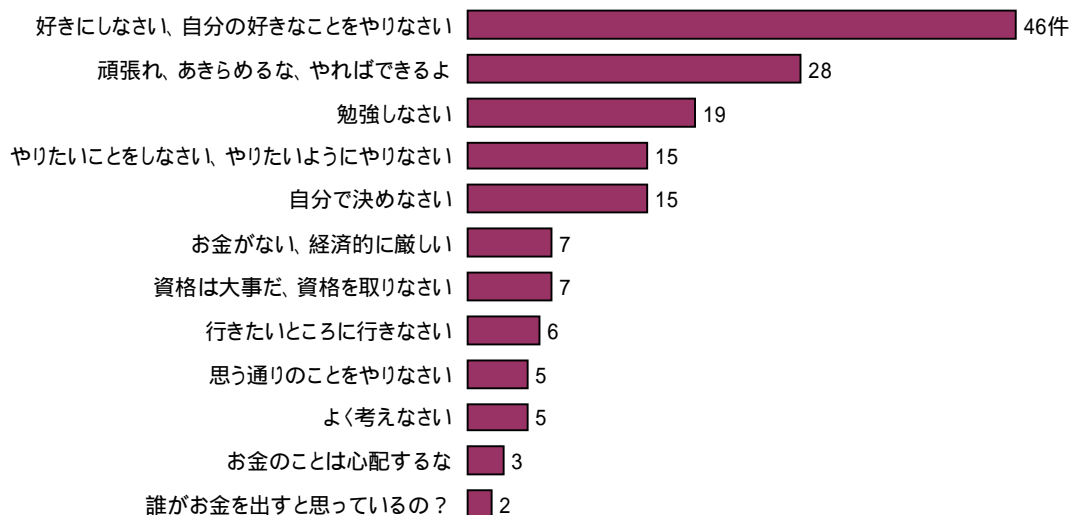
保護者の“決まり文句”は子ども任せ。多い「好きにきなさい」「やりたいことをやりなさい」「自分で決めなさい」。

現在の経済状況を反映してか、少なくない「お金がない・経済的に厳しい」。

進路に関する会話のなかで保護者がたびたび口にする言葉、いわば“決まり文句”を高校生に挙げてもらった。これによると、最も多いのは「好きにきなさい」「自分の好きなことをやりなさい」の46件。「やりたいことをやりなさい」「行きたいところに行きなさい」「思う通りのことをやりなさい」など同じ趣旨の言葉を含めると全部で72件あった。「自分で決めなさい」も15件と少なくない。子どもの希望、主体性に任せようとするスタンスが見られる。

一方、お金絡みの言葉も全部で12件あった。そのうち2件は「誰がお金を出しているの？」だが、多くは「お金がない」「経済的に厳しい」、もしくは「お金のことは心配するな」。このあたりは現在の経済状況を反映しているといえよう。このほか少数意見としては、「浪人は全体に許さない」「とりあえず大学は出なさい」「遊ばせるつもりで大学に行かせるんじゃない」「ちゃんとした仕事に就きなさい」「高望みはするな」「そんなの、なれるわけない」「現実を見なさい」などがあつた。

Q. 進路について話すとき、保護者がよく使う言葉は(自由記述より)



その他の言葉

・進学関連

「その学校出たらどうするのさ。就職できるの？」(青森・専門、女子) / 「浪人は絶対に許さないよ」(群馬・普通、女子) / 「とりあえず大学は出なさい」(山梨・普通、女子) / 「地元の短大にしなさい。卒業したら留学でも何でも好きなようにしなさい」(石川・普通、女子) / 「資格を取りなさい。遊ばせるつもりで大学へ行かせるわけじゃないよ」(山口・専門、女子) / 「ある程度いい大学じゃないと意味がない」(高知・普通、女子) / 「できるだけレベルの高い大学に行きなさい」(宮崎・専門、男子)

・就職関連

「今の世の中、手に職をつけておくべきだ」(青森・専門、女子) / 「ちゃんとした仕事につきなさい」(岐阜・普通、男子) / 「安定した職業につけ」(北海道・普通、女子)

・進路全般

「そんなの、なれるわけないやろ」(岐阜・普通、女子) / 「目指すならもっとレベルの高いところを目指せ」(京都・普通、男子) / 「あなたの夢は何なの？」(京都・普通、男子) / 「失敗しても自分の人生」(和歌山・専門、女子) / 「現実を見なさい」(鹿児島・専門、男子) / 「協力はするけども、最後やるのはお前なんだからな」(岩手・普通、男子) / 「高望みはするな」(岐阜・普通、女子)

5. 進路の話をするときの保護者のスタンス

親は自分の話を「聞いてくれる」という高校生が6割。
 「導いている」「従わせようとしている」という保護者はたったの5.9%。4人に1人が「お互いの考えをよく話し合っている」と回答。

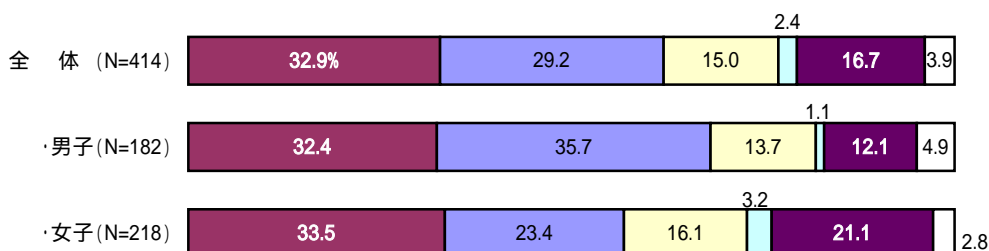
子どもと進路の話をするときの保護者のスタンスはどうだろう。高校生によると、合計62.1%までが自分の話を「よく」、あるいは「ある程度」聞いてくれると回答した。「どちらかという保護者の考えにあなたを導こうとする」(15.0%)、もしくは「あなたの意見をほとんど聞かず、保護者の考えを押しつけようとする」(2.4%)というケースは合計17.4%と少ない。「互いの意見をよく話し合っている」という回答も少なくなく、全体では16.7%、女子においては21.1%を占めている。

保護者の回答をこれと比較すると、自分の考えに「導いたり」「従わせようとしている」ケースは合計5.9%とさらに少なくなる。父親の場合もその割合は10.2%にとどまっている。替わって多いのが「お互いの考えをよく話し合っている」という回答。父親(23.7%)、母親(23.2%)ともに4人に1人がそう答えた。先にみた会話の量と同様、保護者はやや“自己採点”が甘いのかもしれない。

Q. 進路の話をするとき、保護者はどんなスタンスで臨んでいるのか

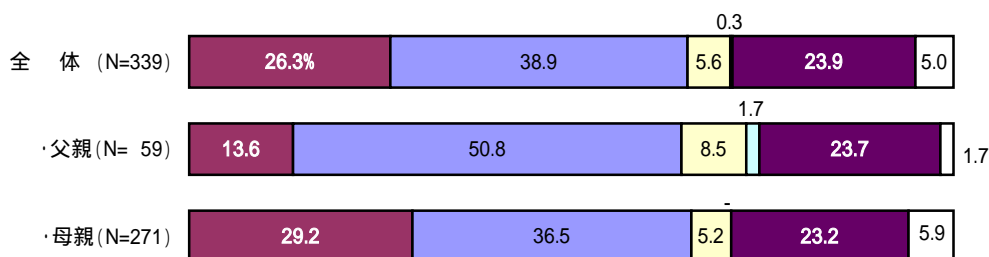
高校生の回答結果

- あなたの話をよく聞いてくれる
- あなたの話をある程度聞いてくれる
- どちらかという、保護者の考えにあなたを導こうとする
- あなたの意見をほとんど聞かず、保護者の考えを押しつけようとする
- お互いの考えをよく話し合っている
- 無回答



保護者の回答結果

- 子どもの話をよく聞いている
- 子どもの話をある程度聞いている
- どちらかという、自分の考えに子どもを導いている
- 子どもの意見はあまり聞かず、自分の考えに子どもを従わせようとしている
- お互いの考えをよく話し合っている
- 無回答



6. 進路選択における保護者への信頼度

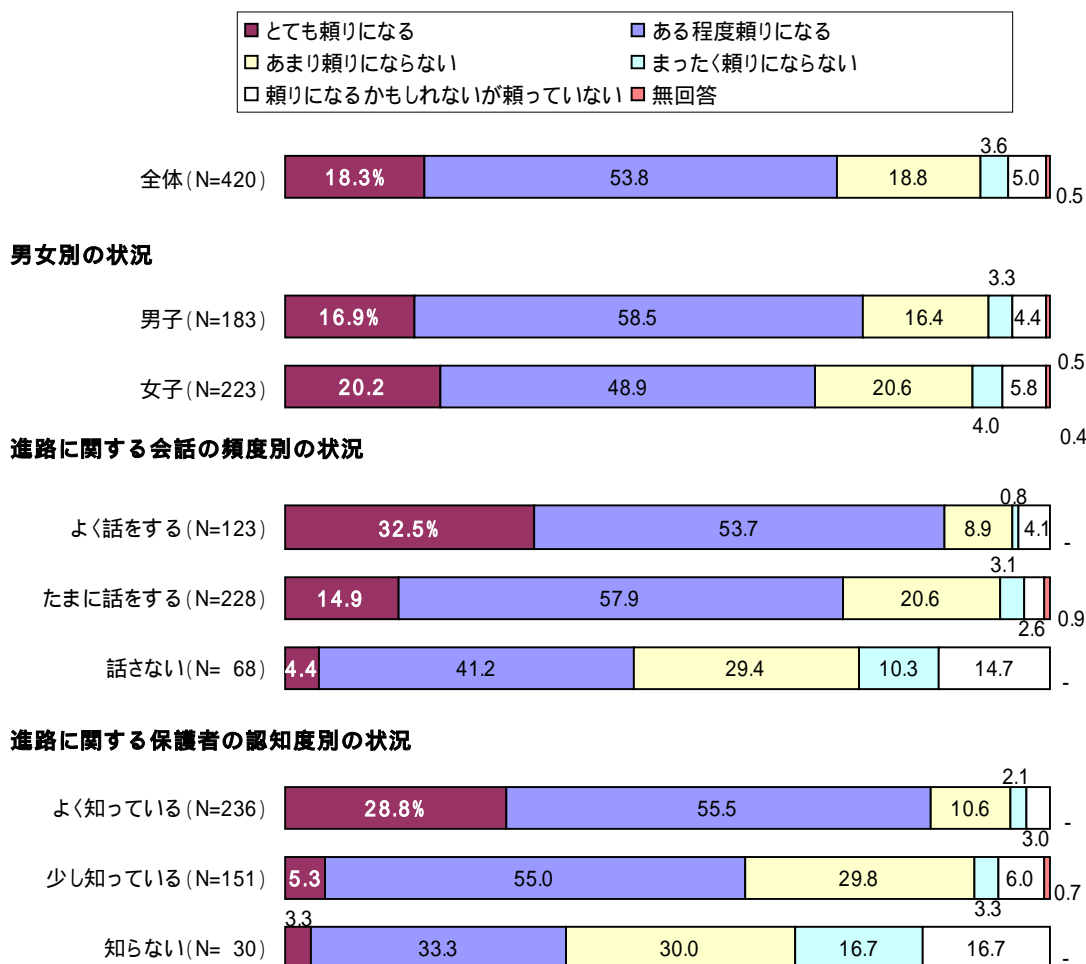
進路選択において保護者は「頼りになる」という高校生が7割。
保護者と進路の話をしているほど高く、「よく話している」高校生の3人に1人が「とても頼りになる」。

「進路選択において保護者は頼りになるか」という質問に対しては、高校生の18.3%が「とても頼りになる」、53.8%が「ある程度頼りになる」と回答した。「頼りにならない」という高校生は「あまり」と「まったく」を合わせても22.4%にとどまっている。

保護者との会話の頻度別にみると、会話が活発であればあるほど保護者への信頼度が高いことがわかる。例えば「よく話をする」という高校生の3人に1人(32.5%)が「とても頼りになる」と回答しているが、「話さない」場合はその割合は4.4%でしかない。

進路に関する保護者の認知度別にみても同様だ。「(保護者は自分の進路を)よく知っている」という高校生の場合、28.8%が「とても頼りになる」と回答。これに対して「(進路を)知らない」場合はその割合はわずか3.3%。「ある程度頼りになる」(33.3%)の割合を加えても36.6%でしかない。

Q. 進路選択において、保護者は頼りになるか



7. 進路選択の際の保護者への関与希望

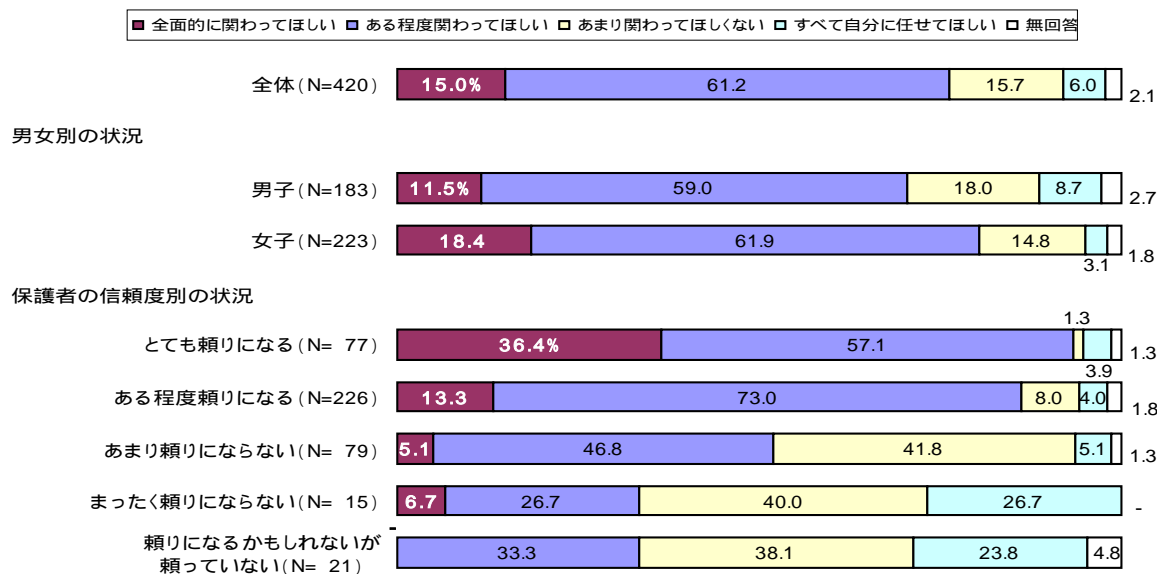
**進路選択の際には「保護者に関わってほしい」高校生は7割超。
理由は「迷ったときに助けてほしい」「自分だけじゃ不安」。多くは精神的なサポートを求める。**

進路選択の際には保護者に関わってほしいと考えている高校生が多い。15.0%が「全面的に」、61.2%が「ある程度」関わってほしいと答えた。女子は「全面的」と「ある程度」の合計が8割を超える。「関わってほしくない」という高校生は男女ともに少ない。

保護者に対する信頼度別にみると、当然のことながら、保護者を頼りにしている高校生ほど関わってほしいと考えている。もっとも、たとえ頼りにならなくとも、保護者には進路選択に関わってほしいと考える高校生も少なくない。まったく頼りにならないという生徒でも3人に1人は関わってほしいと答えた。

保護者に関わってほしい理由を聞くと、「学費などのこともあり、自分一人では決められない」など経済的な面を挙げる例が目立つ。しかし、多くは「迷ったときに助けてほしい」「自分だけじゃ不安だから」と精神的なサポートを求めている。逆に、あまり関わってほしくない、すべて自分に任せてほしいという高校生の場合、「考えを押しつけられるのは嫌」という声が多いものの、「自分のことは自分で決めたい」「失敗しても自分で対処できるようになりたい」など、保護者からの自立を望む高校生も少なくない。

Q. 進路選択の際、高校生は保護者にどの程度関わってほしいと思っているか



保護者の関与を希望する理由、しない理由(自由記述から)

・全面的に関わってほしい

「お金の面でも協力的にはできないことだから」(長野・普通、女子) / 「迷ったときに助けてほしいから」(山梨・普通、男子) / 「いろんな意見を聞いて自分の進路を決めたいから」(山梨・専門、女子) / 「自分だけじゃ不安だから」(三重・総合、女子) / 「親のサポートがないとまだ経済的にも精神的にもやってけないから」(東京・普通、女子)

・ある程度関わってほしい

「あまり自分の進路について言うてほしくないけど、何も言わないのも困る」(静岡・専門、男子) / 「お金のこともあるので関わってほしいけど、関わりすぎるとうさいのでほどほどが良い」(京都・普通、男子) / 「やっぱり1人じゃ不安。でもある程度は自立していかないといけないから、ほどよい加減でサポートしてほしい」(高知・普通、女子)

・あまり関わってほしくない

「基本的には任せてほしいが、間違いなどは指摘してもらいたい」(宮城・普通、男子) / 「自分のことは自分で決めたい」(京都・普通、男子) / 「どうせ私の意見を尊重してくれないだろうから」(岩手・専門、女子)

・すべて自分に任せてほしい

「やりたいことをさせてほしい。自分がやりたかったことを子どもに押し付けないでほしい」(石川・普通、女子) / 「自分の人生だから」(岩手・専門、男子) / 「これからは親に任せずに自分で決めていきたい。失敗しても自分で対処できるようになりたい」(岐阜・普通、女子)

進路情報源

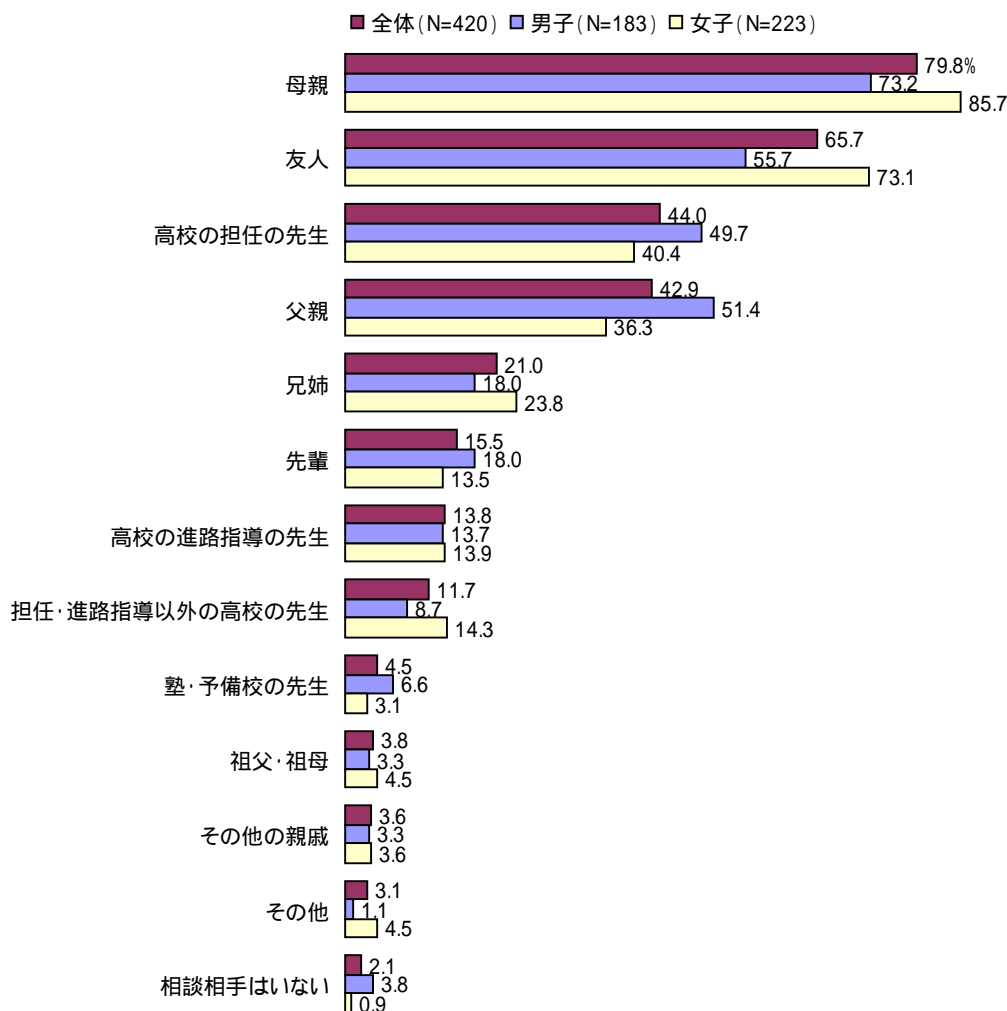
1. 進路選択の相談相手

進路相談の相手は「母親」が8割と最多。次いで「友人」「高校の担任の先生」。影薄い? 「父親」。男子では5割(3位)、女子で3割強(4位)。

進路を考えるうえで誰に相談するかという質問に対しては高校生の79.8%までが「母親」を挙げた。2番目は「友人」の65.7%。「高校の担任の先生」(44.0%)や「父親」(42.9%)は40%台である。

男女別にみると、特に女子は「母親」(85.7%)と「友人」(73.1%)が突出している。「父親」を相談相手にあげたのは36.3%で、「母親」と比較すると50ポイントも少ない。一方、男子の場合は「担任」(49.7%)や「父親」(51.4%)の割合がそれぞれ5割前後おり女子と比較すると多いものの、それでも「母親」より20ポイント以上少ない。

Q. 高校生の進路相談の相手は誰なのか(複数回答)



2. 進路選択に影響を与える人(もの)

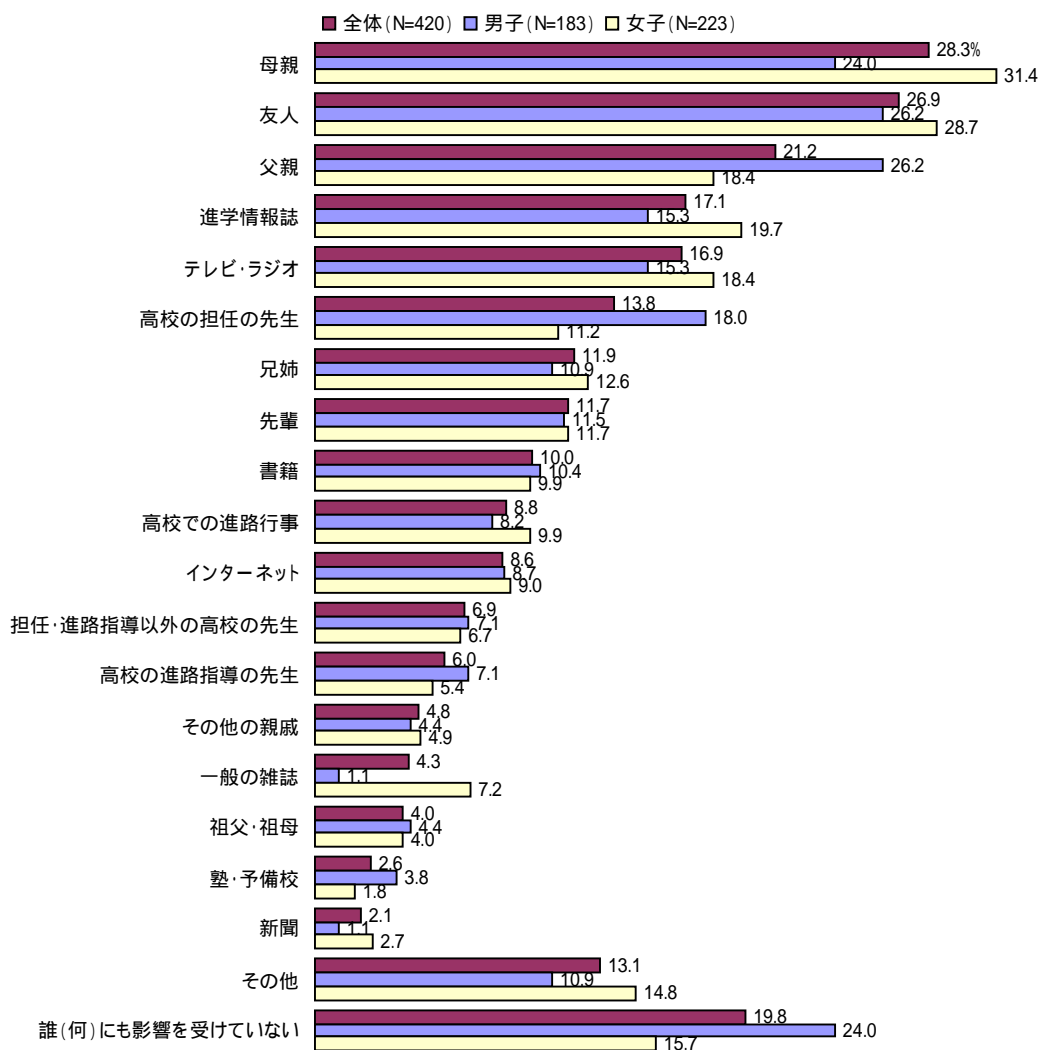
進路選択においても「母親」からの影響が3割で最上位。
 「父親」は男子では1位だが、女子では「友人」「進学情報誌」より下位の4番目。

進路選択に影響を及ぼしている人(もの)としても「母親」が28.3%で最上位に挙げた。高校生の進路選択において母親が重要な位置を占めていることがわかる。母親を一番影響を与える存在として挙げた高校生の自由記述を見ても「自分の将来のことをちゃんと考えてくれるから」「ずっと一緒に暮らしている人だから」というようなコメントが見られ、最も身近な存在だということがわかる。2番目は「友人」(26.9%)で、「父親」(21.2%)、「進学情報誌」(17.1%)、「テレビ・ラジオ」(16.9%)などが続く。

男子と女子とでは若干様子が異なる。男子は「友人」と「父親」がいずれも26.2%で第1位。「母親」は24.0%で3番目である。一方、女子の場合は「母親」が31.4%で第1位。「友人」(28.7%)、「進学情報誌」(19.7%)がこれに続き、「父親」は18.4%で「テレビ・ラジオ」と並んで4番目である。

このほか、男子の24.0%、女子の15.7%が「誰にも影響を受けていない」と答えた。社会に氾濫する多種多様な情報を受け止めるが、特定の影響源を自分で認識しない層が一定数いることを示している。このほか「その他」の中身をフリーコメントから拾うと「学校のパンフレット」「オープンキャンパス」などがあつた。

Q. 高校生は進路選択について誰(何)から影響を受けているか(複数回答)



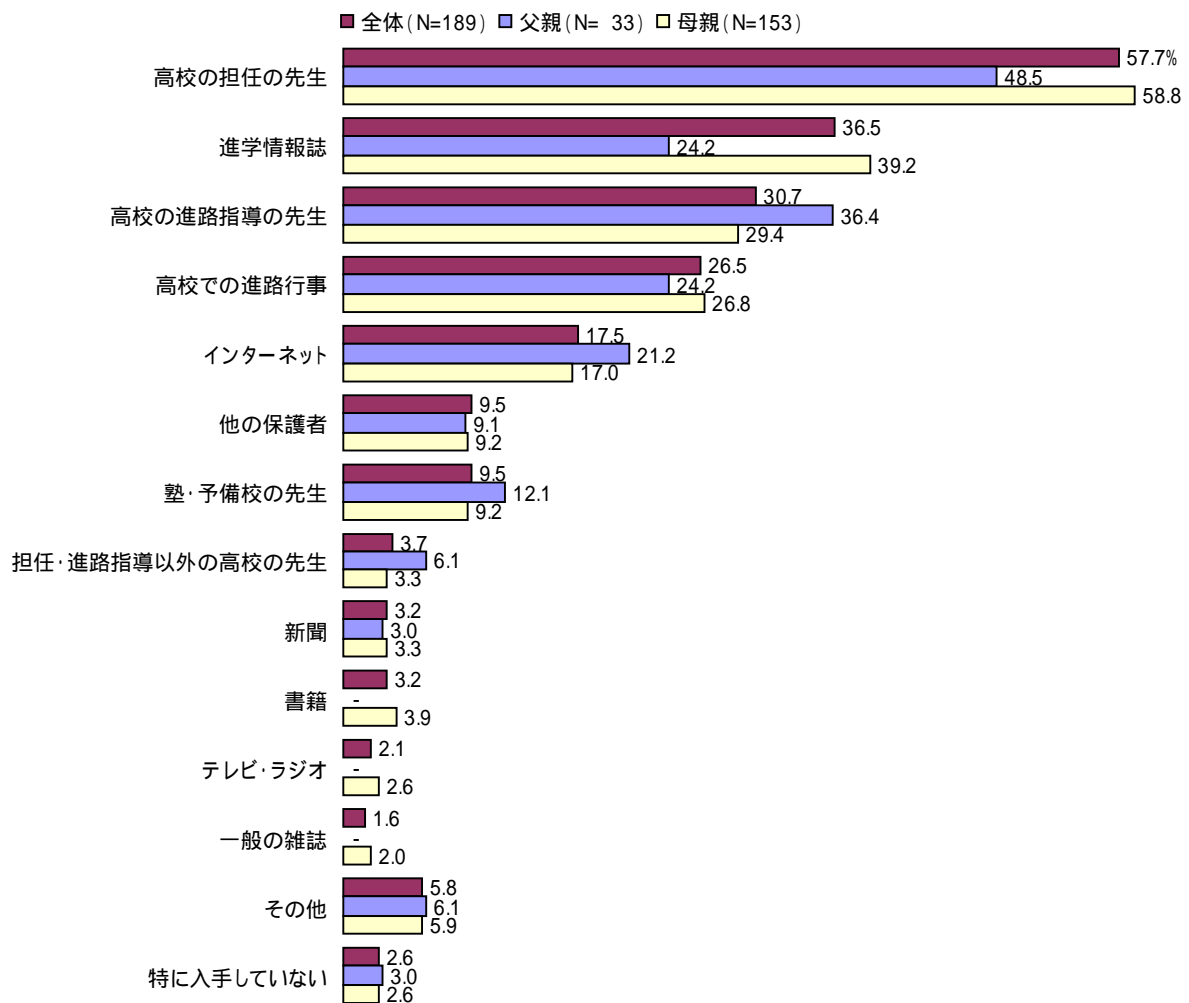
3. 保護者の進路情報入手方法

進学情報の入手方法の最上位は「高校の担任の先生」(57.7%)。次いで「進学情報誌」(36.5%)。母親は「高校の担任の先生」「進学情報誌」、「進路指導の先生」がとくに高いのは父親。

保護者に対して進学情報を入手する方法を聞いたところ「特に入手していない」と回答したのはわずか2.6%。大半が何らかの進学情報を必要としていることがわかる。具体的な入手方法として子どもの「高校の担任の先生」が57.7%を占め突出している。2番目は「進学情報誌」の36.5%。「高校の進路指導の先生」(30.7%)、「高校での進路行事」(26.5%)、「インターネット」(17.5%)などが続く。

「高校の担任の先生」「進学情報誌」の数値を牽引しているのは母親で、それぞれ10ポイント、15ポイントも父親より高い。父親で高いのは「高校の進路指導の先生」で36.4%(母親は29.4%)となった。

保護者は進路情報をどんな方法で入手しているのか(進学希望者/複数回答)



4. 進学にあたって必要としている情報

高校生の1位は「学部・学科の情報」、「入試制度の仕組み」、「進学費用」、「入試の内容」と続く。
保護者の1位は「職業との関連」、次いで「進学費用」、「学部・学科の内容」、「入試制度の仕組み」。

進学にあたって必要な情報として高校生が最も多く挙げたのは「学部・学科の内容」の56.6%。以下「現在の入試制度の仕組み」、「進学費用」、「入試の内容」、「将来の職業との関連」などが続く。男女を比べると、男子に比較的多いのは「入試制度の仕組み」、「入試の内容」、「難易度」など入学するための情報である。なかでも「入試制度の仕組み」については53.5%が挙げ、女子の38.2%を大きく上回っている。また、「授業の内容」や「就職の状況」よりも「難易度」に関する情報を求めている。これに対して女子は「授業の内容」、「就職の状況」、「資格取得の状況」など入学後の情報を求めている。

一方、保護者の場合、最も多く挙げたのは「将来の職業との関連」の52.9%。差なく「進学費用」が続く。高校生では最上位だった「学部・学科の内容」はここでは49.2%で3番目。以下、「入試制度の仕組み」、「資格取得の状況」、「入試の内容」、「就職の状況」と続く。

保護者の場合も、父親と母親とは違いがある。父親が最も必要としているのは「入試制度の仕組み」の54.5%。入学するまでの情報を重視しているのは男子生徒と同じだ。これに対して母親の場合はやはり女子生徒と同様、「将来の職業との関連」のほか「資格取得の状況」、「就職の状況」、「奨学金の種類と採用条件」など、むしろ入学後のことに関心を持っている。

参考までに、2002年10月に高校の進路指導担当者を対象に行った調査結果をみると、進路指導において何を重要視しているかという問いに対し、高校生と保護者が上位に挙げる「学部・学科の内容」は教師では6番目。「就職先実績」が67.3%で突出していたが、これについては、高校生、保護者ともに3割程度の必要度にとどまっている。このあたりに高校生・保護者と教師の視点の違いがみえる。

Q. 進学にあたってどのような情報を必要としているか

・高校生

	全体	男子	女子
1 学部・学科の内容	56.6%	58.9%	56.7%
2 現在の入試制度の仕組み	44.7	53.5	38.2
3 進学費用(学費・生活費など)	43.1	41.9	44.6
4 入試の内容	41.4	45.0	39.5
5 将来の職業との関連	36.3	36.4	36.3
6 授業の内容	32.9	27.1	35.7
7 就職の状況(実績)	28.5	25.6	31.8
8 難易度	28.1	34.1	22.9
9 資格取得の状況(実績)	26.1	17.8	31.8
10 奨学金の種類と採用条件	23.7	22.5	24.8
11 校風・雰囲気	22.4	19.4	24.2
12 カリキュラムの特徴	15.9	14.0	17.2
13 施設・設備の充実	15.9	17.8	13.4
14 大学・短大・専門学校など学校種の違い	10.8	11.6	10.8
15 周辺環境	10.8	14.7	7.0
16 教育方針	9.5	10.9	8.9
17 最近の高校生の卒業後の進路	9.2	11.6	7.0
18 自分の高校からの入学実績	7.8	6.2	9.6
19 通学の便	7.1	7.8	6.4
20 教授(先生)陣の充実	6.4	7.0	4.5
21 進学に利用できる教育ローン	4.1	3.9	4.5
22 知名度	2.0	4.7	-
23 その他	-	-	-

・保護者

	全体	父親	母親
1 将来の職業との関連	52.9%	45.5%	54.9%
2 進学費用(学費・生活費など)	50.3	48.5	50.3
3 学部・学科の内容	49.2	51.5	49.7
4 現在の入試制度の仕組み	44.4	54.5	43.1
5 資格取得の状況(実績)	34.4	21.2	36.6
6 入試の内容	32.8	27.3	34.6
7 就職の状況(実績)	29.1	18.2	31.4
8 奨学金の種類と採用条件	25.4	12.1	28.1
9 難易度	21.7	24.2	20.9
10 大学・短大・専門学校など学校種の違い	16.9	12.1	17.6
11 校風・雰囲気	16.4	21.2	15.0
12 授業の内容	14.8	12.1	15.0
13 進学に利用できる教育ローン	12.7	15.2	11.1
14 カリキュラムの特徴	12.2	12.1	11.8
15 周辺環境	11.1	15.2	9.8
16 最近の高校生の卒業後の進路	10.1	6.1	11.1
17 教育方針	9.0	15.2	7.8
18 施設・設備の充実	8.5	12.1	7.8
19 子どもの高校からの入学実績	6.9	6.1	7.2
20 教授(先生)陣の充実	5.8	3.0	6.5
21 通学の便	5.8	6.1	5.9
22 知名度	-	-	-
23 その他	-	-	-

・高校教師 *2002年調査

	全体
1 就職先実績	67.3%
2 推薦入学制度の有無・内容	49.9
3 就職指導の内容	47.3
4 入試科目・内容	45.5
5 初年度納入金(学費)	44.1
6 学部・学科の詳しい内容	38.9
7 資格取得の実績	36.8
8 教育設備の充実	32.6
9 奨学金制度	29.0
10 資格取得のための指導の仕方	28.9
11 偏差値	27.1
12 校風・雰囲気	26.3
13 募集学部・学科定員	25.2
14 教授(先生)の充実	21.2
15 入試倍率	20.8
16 カリキュラムの特徴(シラバス)	19.4
17 卒業生の入学実績	19.4
18 沿革・建学の精神・伝統	11.9
19 短大の大学編入学制度	8.7
20 授業方法の工夫	8.5
21 カリキュラム選択の自由度	7.7
22 短大の4大への編入学実績	7.5
23 専門学校の大学編入学制度	5.5
24 大学院への進学実績	4.7
25 専門学校の大学・短大併修制度	2.4
26 学校間の単位互換制度	1.9
27 留学制度	1.6
28 サークル活動の充実度	1.4
29 男女比率	0.9
30 その他	1.2

進路選択理由

1. 希望進路

保護者の12.0%が「子どもが希望する進路なら何でもいい」、親子間で最も相違がみられるのは専門学校進学。保護者も希望は5割切る。

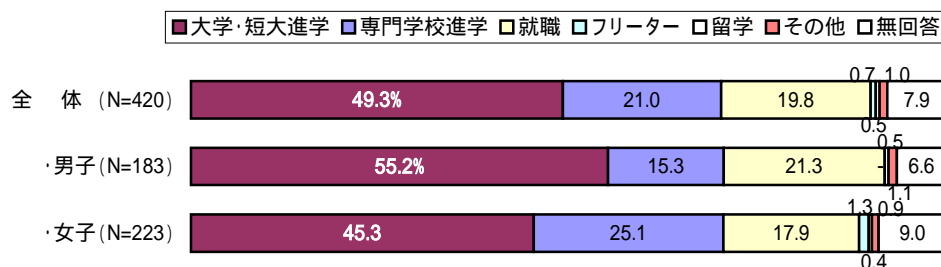
高校卒業後の進路については、高校生の49.3%が大学・短大への進学を希望していると回答した。専門学校進学(21.0%)、就職(19.8%)はそれぞれ2割。フリーター希望者はこの段階ではわずか0.7%しかない。最近の厳しい就職状況を考えると、現時点で就職を希望している生徒や7.9%いる無回答組が3月の最終段階でどう変化するか、気になるところだ。

一方、保護者の回答結果をみると、大学・短大、専門学校、就職ともにその希望割合は高校生の希望より少しずつ少ない。そして、12.0%が「子どもが希望する進路なら何でもいい」と答えた。

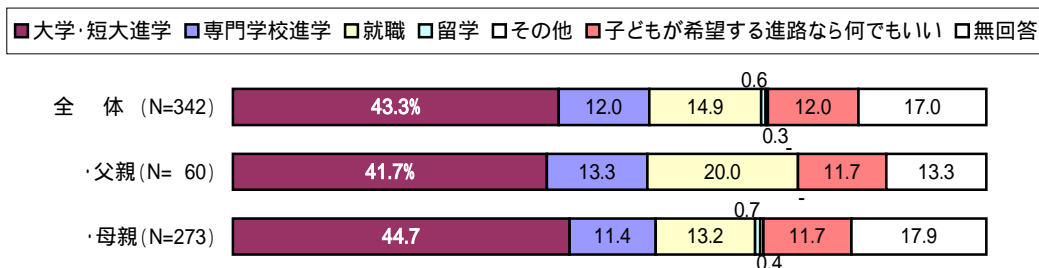
参考までに、親子の進路希望をすりあわせると、自分の子どもが大学・短大を希望しているケースではその保護者も70.3%が大学・短大を希望しており、子どもが就職希望の場合もその保護者は66.1%が就職を希望していることがわかった。親子間で最も相違がみられるのは子どもが専門学校を希望しているケース。保護者も専門学校を希望しているのは48.4%で、8.1%が大学・短大進学、6.5%が就職を希望している。

どのような進路を希望しているのか

高校生の回答結果



保護者の回答結果



Q. 高校生と保護者の進路希望にズレはあるか

保護者	高校生		
	大学・短大進学希望	専門学校進学希望	就職希望
大学・短大進学希望	70.3%	8.1	-
専門学校進学希望	1.2	48.4	3.4
就職希望	-	6.5	66.1

2. 進学に際しての価値観

**進学希望者の95%が「自分のやりたいことができる学校」を希望。
「家計に負担をかけない進学を」という高校生、「学費の安い学校」を希望する保護者は7割前後も。**

高校生や保護者は進学に関してどのような価値観を持っているのか。まず、進学希望の高校生についてみると、「知名度の高い大学」や「難易度の高い大学」に進学したいという生徒は「とても」と「まあ」を合わせても3割に届かず意外に少ない。最も多いのは「自分のやりたいことができる学校に進学したい」。「自分の個性や能力を生かせる学校に進学したい」「社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学したい」「資格を取得できる学校に進学したい」などが続く。

一方、「家計を圧迫しないように、進学はあきらめて働きたい」という高校生は少ないものの、「家計のことが心配なので、できるだけ負担をかけない進学をしたい」という生徒は7割を超える。ここでも、厳しい経済状況が進路選択に影響していることがわかる。保護者も同じだ。より具体的に経済的な影響を聞いたところ、「できるだけ学費の安い学校へ」(70.5%)、「経済的な事情からも国立へ」(62.4%)、「仕送りは難しいので地元の学校へ」(61.5%)という保護者が6割を超えた。これらの割合は世帯年収が少なくなるほど多くなる。400万円未満の場合、74.1%が国立を、77.8%が地元の学校を希望している。

このほか、「やりたいことがないのでとりあえず進学」「あまり苦労せずに入れる学校に」という高校生やそれを認める保護者も一定数いる。特に「やりたいことがないので…」については生徒本人よりも保護者に多くなっている。

Q. 高校生は進学に際してどのような価値観を持っているのか (進学希望者 N=297)

	思 と う も そ う	う ま あ そ う 思	え な ん と も い	思 あ わ ま な り そ う	う ま 思 つ わ た な く い そ	無 回 答	計 そ う 思 う ・	い そ う 思 わ な
自分のやりたいことができる学校に進学したい	78.5	16.8	3.0	0.7	0.3	0.7	95.3	1.0
自分の個性や能力を生かせる学校に進学したい	64.6	26.9	7.1	0.7	0.3	0.3	91.6	1.0
社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学したい	52.5	29.6	11.4	1.7	3.4	1.3	82.2	5.1
資格を取得できる学校に進学したい	44.4	31.6	15.2	4.0	4.0	0.7	76.1	8.1
家計のことが心配なので、できるだけ負担をかけない進学をしたい	39.4	33.0	15.5	7.7	3.4	1.0	72.4	11.1
受験であまり苦労せずに入れる学校に進学したい	12.8	22.2	30.3	16.8	17.5	0.3	35.0	34.3
できるだけ知名度の高い大学に進学したい	7.1	19.9	24.6	26.3	21.9	0.3	26.9	48.1
できるだけ難易度が高い大学に進学したい	5.4	16.2	28.3	28.3	21.5	0.3	21.5	49.8
やりたいことがないので、とりあえず進学し、その後見つけたい	5.1	11.4	21.2	20.2	41.4	0.7	16.5	61.6
日本にいい大学がないので海外の大学に留学したい	2.0	4.4	12.8	20.2	59.9	0.7	6.4	80.1
家計を圧迫しないように、進学はあきらめて働きたい	0.7	1.7	19.5	28.3	49.5	0.3	2.4	77.8

Q. 保護者は進学に際してどのような価値観を持っているのか (進学希望の子どもを持つ保護者 N=234)

	思 と う も そ う	う ま あ そ う 思	え な ん と も い	思 あ わ ま な り そ う	う ま 思 つ わ た な く い そ	無 回 答	計 そ う 思 う ・	い そ う 思 わ な
本人の個性や能力を生かせる学校に進学してほしい	67.1	27.8	3.0	0.4	-	1.7	94.9	0.4
本人のやりたいことができる学校に進学してほしい	63.2	29.9	4.3	0.4	-	2.1	93.2	0.4
社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学してほしい	41.9	35.5	16.2	3.4	-	3.0	77.4	3.4
できるだけ学費の安い学校に進学してほしい	35.5	35.0	18.4	5.1	3.8	2.1	70.5	9.0
資格を取得できる学校に進学してほしい	38.5	31.6	21.4	4.3	1.7	2.6	70.1	6.0
経済的な事情からも国立の学校に進学してほしい	36.3	26.1	17.9	9.4	6.8	3.4	62.4	16.2
仕送りは難しいので地元の学校に進学してほしい	34.2	27.4	17.5	11.1	7.7	2.1	61.5	18.8
受験費用があまりかからないよう、できるだけ受験校数は少なくしてほしい	20.5	32.1	28.2	13.2	3.8	2.1	52.6	17.1
やりたいことがないので、とりあえず進学し、その後見つけてくれればいい	1.7	24.8	30.3	22.2	17.9	3.0	26.5	40.2
できるだけ知名度の高い大学に進学してほしい	2.6	15.0	27.4	30.3	21.4	3.4	17.5	51.7
受験であまり苦労せずに入学できるような学校に行ってほしい	4.3	13.2	32.1	29.5	18.4	2.6	17.5	47.9
できるだけ難易度が高い大学に進学してほしい	1.3	12.4	27.4	32.1	23.9	3.0	13.7	56.0
日本にいい大学がないなら海外の大学に留学するのがいい	1.7	7.3	23.1	20.5	44.9	2.6	9.0	65.4
家計が苦しいので申しわけないが進学はあきらめてほしい	1.7	2.6	18.4	24.4	50.4	2.6	4.3	74.8

3. 進学を希望する理由

大学・短大希望者、専門学校希望者ともに最大の希望理由は「学びたいことがある」、子どもを大学・短大に進学させたい保護者の最大の理由は「本人も希望している」。

大学・短大進学を希望する理由として最も多く挙げたのは「学びたいことがある」の71.5%。15ポイント離れて「知識や技術を身につけたい」「学生生活を楽しまたい」「就職を有利にしたい」などが続く。なお、上位ではないものの、「学歴がほしい」「しばらく遊んでいたい」「やりたいことが見つからない」などが比較的多いのは男子だ。女子は「進学したい大学・短大がある」「希望する資格や免許を取るため」など目的がはっきりしている。

一方、保護者の回答をみると、74.3%までが「本人も希望している」を挙げた。また、高校生の回答結果と比較して目立って多いのが「幅広い教養を身につけてほしい」である。高校生の場合、「教養を身につけたい」は36.2%だが、保護者の7割近くが挙げた。

専門学校希望者の場合も「学びたいことがある」(83.0%)と「知識や技術を身につけたい」(79.5%)が上位を占めた。大学・短大希望者の54.6%が挙げた「学生生活を楽しまたい」はここでは22.7%と少ない。その分「資格や免許を取るため」が多く、69.3%を占めている。

保護者の場合、大学・短大希望者では最上位だった「本人も希望している」は65.9%で2番目。ここでは「知識や技術を身につけさせる」(75.6%)が多い。「資格や免許を取らせる」「就職を有利にさせたい」などが続き、子どもの意識とのズレはない。

Q. どうして大学・短大に進学したいのか、させたいのか

・高校生の回答結果

	全体	男子	女子
学びたいことがある	71.5%	67.3%	74.3%
仕事に役立つ知識や技術を身につけたい	56.5	56.4	56.4
学生生活を楽しまたい	54.6	55.4	53.5
就職を有利にしたい	51.2	59.4	41.6
進学したい大学・短大がある	47.3	37.6	57.4
希望する資格や免許を取るため	44.9	33.7	56.4
教養を身につけたい	36.2	33.7	39.6
すぐに社会に出る自信がない	32.4	33.7	29.7
したい仕事は大学・短大卒業でないとできない	28.0	21.8	35.6
学歴が欲しい	24.2	28.7	18.8
まだ働きたくない。しばらく遊んでいたい	21.3	26.7	14.9
やりたいことが見つからない	18.8	21.8	15.8
不景気で就職できそうもない	16.9	18.8	15.8
保護者が強く薦める	15.9	15.8	14.9
大学・短大に進学するのは当然だ	15.5	15.8	14.9
友達の多くが大学・短大に進学する	10.6	10.9	9.9
高校の先生が強く薦める	4.3	3.0	5.0
特に理由はないが、何となく	1.0	2.0	-

・保護者の回答結果

	全体	父親	母親
本人も希望している	74.3%	68.0%	76.2%
幅広い教養を身につけてほしい	68.9	64.0	69.7
仕事に役立つ知識や技術を身につけさせたい	65.5	64.0	65.6
希望の職業に就くためには大学・短大に進学	44.6	36.0	45.9
就職を有利にさせたいため	37.8	32.0	39.3
希望している資格や免許を取らせるため	37.8	28.0	39.3
学歴を持たせたいから	23.6	28.0	23.0
やりたいことが見つからないようだ	23.0	28.0	22.1
子どもを社会に送り出すにはまだ早い	20.9	20.0	21.3
自分が行けなかったので子どもには行かせたい	18.2	20.0	18.0
大学・短大を出なければ社会が認めてくれない	14.2	20.0	13.1
不景気で就職できそうもない	12.8	16.0	12.3
大学・短大に進学させるのは親として当然だ	9.5	20.0	7.4
高校の先生が強く薦める	0.7	-	0.8
知り合いの子供はみんな大学・短大に進学する	0.7	-	0.8
特に理由はないが、何となく	-	-	-

Q. どうして専門学校に進学したいのか、させたいのか

・高校生の回答結果

	全体	男子	女子
学びたいことがある	83.0%	82.1%	87.5%
仕事に役立つ知識や技術を身につけたい	79.5	78.6	83.9
希望する資格や免許を取るため	69.3	67.9	69.6
進学したい専門学校がある	54.5	42.9	62.5
就職を有利にしたい	39.8	32.1	42.9
したい仕事は専門学校を卒業しないとできない	31.8	32.1	32.1
すぐに社会に出る自信がない	29.5	25.0	33.9
学生生活を楽しまたい	22.7	10.7	30.4
就職を考えると大学・短大より専門学校だ	22.7	10.7	30.4
大学・短大には進学できそうもない	15.9	25.0	12.5
まだ働きたくない。しばらく遊んでいたい	12.5	7.1	16.1
友達の多くが専門学校に進学する	3.4	3.6	3.6
高校の先生が強く薦める	3.4	-	3.6
保護者が強く薦める	2.3	3.6	1.8
やりたいことが見つからない	2.3	3.6	1.8
不景気で就職できそうもない	1.1	-	1.8
特に理由はないが、何となく	-	-	-

・保護者の回答結果

	全体
仕事に役立つ知識や技術を身につけさせるため	75.6%
本人も希望している	65.9
希望している資格や免許を取らせるため	53.7
就職を有利にさせたいから	43.9
希望の職業に就くためには専門学校に進学	43.9
就職を考えると、大学・短大より専門学校だ	22.0
4年間は厳しいが2年間なら学費の心配はない	17.1
大学・短大には進学できそうもない	12.2
やりたいことが見つからないようだ	9.8
子どもを社会に送り出すにはまだ早い	7.3
不景気で就職できそうもない	7.3
高校の先生が強く薦める	4.9
特に理由はないが、何となく	-

4. 就職を希望する理由

「自分も働いて家計を助けたい」という高校生が34.9%。
 「経済的に厳しい」「自立してほしい」と、家庭の経済事情から子どもに就職を望む保護者も3割強。

就職を希望する理由としては、「早く働きたい、早く社会に出たい」(49.4%)が最も多く、差なく「自分でお金を稼ぎ、好きに使いたい」(47.0%)、「勉強が嫌いだ」(41.0%)、「早く経済的に自立したい」(41.0%)などが続く。「経済的に進学できそうもない」や「進学できそうだが保護者に負担をかけたくない」はそれぞれ18.1%でそれほど多くはないが、「自分も働いて家計を助けたい」という高校生は34.9%いる。

また、「やりたい仕事がある」という高校生は32.5%で6番目。具体的にやりたいと思う仕事があるから就職を希望するというより、多くは「働きたい」「独立、自立したい」という思いが最初にあって就職を希望している。

一方、保護者の場合、最も多く挙げたのは「本人も希望している」の54.9%だが、「進学させるには経済的に厳しい」(37.3%)、「経済的に自立してほしい」(35.3%)など家庭の経済事情を理由に挙げるケースも3割強と少なくない。

Q. どうして就職したいのか、させたいのか (複数回答)

・高校生の回答結果

	全体	男子	女子
早く働きたい、早く社会に出たい	49.4%	43.6%	57.5%
自分でお金を稼ぎ、好きに使いたい	47.0	46.2	50.0
勉強が嫌いだ	41.0	43.6	40.0
早く経済的に自立したい	41.0	30.8	52.5
自分も働いて家計を助けたい	34.9	30.8	42.5
やりたい仕事がある	32.5	28.2	40.0
自立して親元から離れたい	26.5	25.6	27.5
経済的に進学できそうもない	18.1	20.5	17.5
進学できそうだが保護者に負担をかけたくない	18.1	7.7	27.5
高校を卒業したら就職または家業を継ぐもの	13.3	5.1	20.0
進学には成績が不十分	12.0	17.9	7.5
保護者が強く薦める	3.6	5.1	2.5
高校の先生が強く薦める	-	-	-
特に理由はないが、何となく	2.4	2.6	-

・保護者の回答結果

	全体
本人も希望している	54.9%
進学させるには経済的に厳しい	37.3
経済的に自立してほしい	35.3
希望するところへ就職できそう	11.8
進学には成績が不十分	9.8
働き手として期待している	3.9
高校を卒業したら就職するのが当然	2.0
進学しても何のメリットもない	2.0
自分や子どもが希望する職業に学歴は関係ない	2.0
就職先のあてがあるので	-
高校の先生が強く薦める	-
親の仕事を継ぐことが決まっている	-
特に理由はないが、何となく	-

・職業観

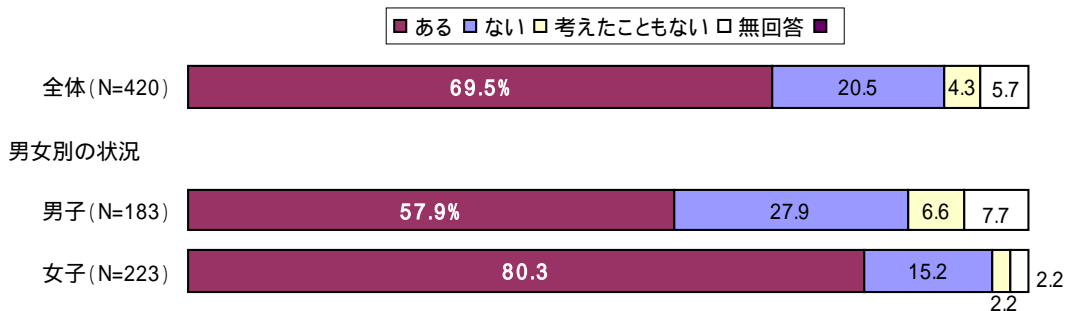
1. 高校生がなりたい職業

将来なりたい職業がある高校生は7割。
男子の1位は「教師」、女子は「保育士・幼稚園教諭」。資格と安定がキーワード。

将来なりたい職業があるかという質問に対しては、69.5%が「ある」と回答した。女子(80.3%)は男子(57.9%)を22.4ポイントも上回っており、ここでも女子の意識の高さがわかる。

なりたい職業を3つまで自由に書いてもらったところ、男子が「教師」「公務員」「大学教授・研究者・学者」、女子が「保育士・幼稚園教諭」「看護師」「教師」を挙げ、資格を必要とし、身分的に安定していると思われる職業が上位を占めた。2000年2月の調査では「ゲームクリエイター」「パイロット」「心理カウンセラー」「フライトアテンダント」「アナウンサー・レポーター」などカタカナ職業が上位に挙がっているが、今回はほとんど姿を消した。華やかさ、かっこよさよりとにかく就職、安定性ということだろうか。それぞれの職業を希望する理由をみても、「給料が安定している」(教師志望)、「不景気のなか、一番安定しているから」(公務員志望)、「結婚しても子どもを産んでも続けられる」(歯科衛生士志望)といった理由を挙げる高校生も少なくない。

Q. 高校生は将来なりたい職業があるのか



Q. どんな仕事に就きたいのか(3つまで回答)

全体	男子	女子
1 保育士・幼稚園教諭 8.6%	1 教師 10.4%	1 保育士・幼稚園教諭 12.8%
2 教師 7.5	2 公務員 8.5	2 看護師 10.1
3 公務員 7.2	3 大学教授・研究者・学者 6.6	3 教師 6.1
4 看護師 6.8	4 プログラマー 6.6	4 医療事務・医療秘書 6.1
5 医療事務・医療秘書 3.8	5 システムエンジニア 4.7	5 美容師 4.5
6 社会福祉士・介護福祉士 3.4	6 建築士 4.7	6 社会福祉士・介護福祉士 4.5
7 美容師 3.1	7 ミュージシャン・演奏家 3.8	7 公務員 3.9
8 大学教授・学者・研究者 3.1	8 薬剤師 2.8	8 理学療法士・作業療法士 3.9
9 販売職 2.7	9 調理師・シェフ 2.8	9 販売職 3.4
10 理学療法士・作業療法士 2.7	10 歌手 2.8	10 事務 3.4
	CGデザイナー 2.8	

自由記述で3つまで回答

参考: 2000年2月調査(職種イメージ調査2000)

男子	女子
1 国家公務員 13.1%	1 フライトアテンダント 9.3%
2 地方公務員 10.3	2 心理カウンセラー 8.7
3 ゲームクリエイター 9.0	3 医師 8.0
4 プログラマー 7.6	4 看護婦(師) 8.0
5 高校教諭 7.6	5 保育士 7.3
6 医師 7.6	6 作家(小説・絵本・エッセイ) 6.7
7 歌手 6.9	7 秘書 6.0
8 中学校教諭 6.9	8 アナウンサー・レポーター 6.0
9 警察官 6.2	9 編集者 5.3
10 パイロット 6.2	10 カメラマン 5.3
11 ミュージシャン・演奏家 6.2	11 俳優・女優・役者 5.3
12 大学教授・助教授・講師・研究者 6.2	
13 プロスポーツ選手 6.2	

170の職種より3つ選択

どうしてその職業に就きたいのか(自由記述から)

- ・保育士・・・「小さい子どもが好きだから。一番変化の大きい成長の過程を見たい」(東京・普通、女子)
- ・教員・・・「公務員で、給料が安定してるから」(福井・専門、男子) / 「今の先生とは違うことを教えたいから」(石川・普通、男子) / 「尊敬する先生に出会い、自分もそのようになりたいから」(愛知・普通、女子)
- ・公務員・・・「不景気のなか、一番安定している」(新潟・専門、男子) / 「地域や国のために働きたい」(岩手・専門、男子)
- ・看護師・・・「小さいころからの夢。必要とされる仕事だから」(大分・普通、女子) / 「男性も増えてきている職業だし、人との関わりを大切にしていきたいから」(岐阜・普通、男子)
- ・社会福祉士・介護福祉士・・・「少しは就職が楽そうだから」(鹿児島・専門、男子) / 「ボランティアへ行った時お年寄りの方の、役に立てることができた」(岐阜・普通、女子)
- ・歯科衛生士・・・「将来のことを長い目で考えたときに、結婚しても子どもを産んでも続けられるから」(福井・総合、女子)

2. 高校生がなりたくない職業

男子1位「サラリーマン」 2位「教師」、 女子1位「教師」 2位「フリーター」。

なりたくない職業としては、男子では「サラリーマン」「教師」「土木業・建設業」、女子では「教師」「フリーター」「看護師」などが挙げられた。このほか10位までに挙げられた職種をみると、「営業」「接客」「事務・経理」「販売職・スーパー店員」「製造」など、保護者の多くが従事していると思われる職業名が入っている。周囲にいる身近な大人たちが魅力的に見えていない、あるいは高校生たちにはその一面しか見えてない結果だろうか。「平凡な暮らしはしたくない」(サラリーマン)、「事務作業は魅力を感じられない」(OL)、「ウソをついてまで売りたいくない」(営業職)、「同じ作業の繰り返しだから」(製造業)といったようにステレオタイプの表面的な職種イメージにもとづくコメントが目につく。

Q. どんな職業になりたくないのか(3つまで回答)

参考:2000年2月調査(職種イメージ調査2000)

・全体		・男子		・女子		・男子		・女子	
1 教師	8.8%	1 サラリーマン・OL	7.1%	1 教師	11.2%	1 政治家	21.4%	1 政治家	26.7%
2 サラリーマン・OL	4.8	2 教師	6.0	2 フリーター	5.8	2 営業	18.6	2 営業	10.7
3 フリーター	4.0	3 土木業・建設業	3.8	3 看護師	3.6	とび工	18.6	中学校教諭	10.7
4 政治家・政治関係	3.1	4 政治家・政治関係	3.3	4 サラリーマン・OL	3.1	4 自衛官	12.4	医師	10.7
5 事務・経理	2.9	5 営業	3.3	5 政治家・政治関係	3.1	5 高校教諭	9.7	看護婦(師)	10.7
6 看護師	2.4	6 接客	3.3	6 福祉関係	2.7	6 商社マン	9.0	6 とび工	9.3
7 営業	2.1	7 事務・経理	2.7	7 医師	2.2	7 お笑いタレント	8.3	8 高校教諭	9.3
8 医師	2.1	8 販売職・スーパー店員	2.7	8 製造業	2.2	大工	8.3	8 漁業従事者	8.0
9 土木業・建設業	2.1	9 医師	2.2	9 自衛官	1.8	10 秘書	7.6	9 大工	7.3
10 接客	2.1	10 フリーター	2.2	10 販売職・スーパー店員	1.8	10 小学校教諭	7.6	10 プロスポーツ選手	6.7
11 販売職・スーパー店員	2.1	11 警察官	2.2	11 医療関係(医師・看護師以外)	1.8			八田屋・魚屋などの自営業	6.7
								11 林業従事者	6.7

自由記述で3つまで回答

170の職種より3つ選択

どうしてその職業を嫌うのか(自由記述から)

- ・サラリーマン・・・「今リストラなどがあって厳しい」(福井・専門、男子) / 「平凡な暮らしはしたくないから」(京都・普通、男子) / 「毎日がつまらなそう」(新潟・専門、男子) / 「毎日同じ仕事するより、毎日少しでも違う感じで生活したいから」(静岡・専門、男子)
- ・OL・・・「退屈そうで、女性にとっては不利そうで嫌い」(福井・専門、女子) / 「事務作業は魅力を感じられない」(愛知・普通、女子)
- ・教師・・・「小、中、高と先生を見ていて苦労しかしてないように見えるから」(山梨・普通、女子) / 「生徒の嫌われ者だから」(新潟・普通、女子) / 「大変そうだから」(新潟・専門、女子)
- ・フリーター・・・「最後は、自分に返ってくるんだと思う。今、苦労してあとで楽したほうがいい」(山形・専門、女子) / 「やりたいこともみつからずだらだらした生活はしたくない」(岩手・普通、男子) / 「社会的に自立できていないように思えるから」(岐阜・普通、女子)
- ・営業職・・・「人の家を訪問して、初対面の人と会話するのはとても大変だと思う」(新潟・専門、男子) / 「とてもキツそうだから」(長崎・専門、男子) / 「ウソをついてまで商品を売りたいくない」(和歌山・専門、男子)
- ・販売職・・・「人と話すのが苦手だから」(山口・専門、男子) / ノルマを達成できないと思う。無理矢理買わせるイメージがある」(岩手・専門、女子)
- ・事務職・・・「じっとしている仕事は合わなさそうだから」(石川・普通、女子)
- ・看護師・・・「夜勤が大変そうだし、血は苦手」(新潟・専門、女子)
- ・医療関係・・・「人の命に関わる仕事は重すぎてできない」(福井・専門、女子)
- ・公務員・・・「夢がある職業だと思えないから」(青森・専門、女子)
- ・製造業・・・「同じ作業の繰り返しだから」(新潟・専門、女子)
- ・政治家・・・「裏で何をやってるかわからない」(静岡・専門、男子)

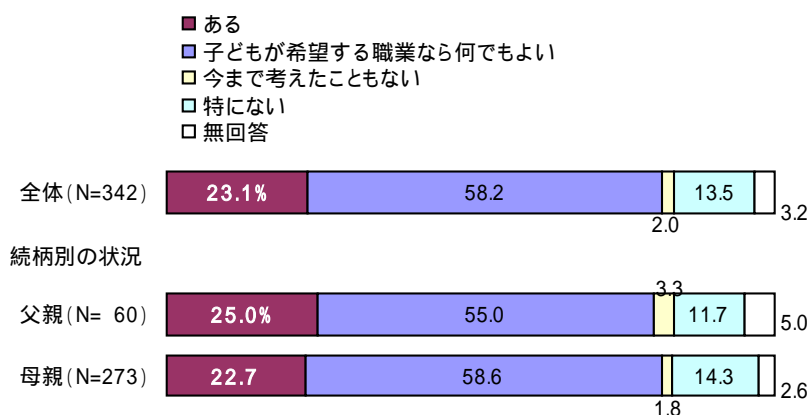
3. 保護者が子どもに望む職業

「ある」は2割強にとどまり、6割は「子どもが希望する職業なら何でもよい」、
「公務員」「教師」「看護師」など安定した職業が人気上位を占める。

保護者に対して、自分の子どもになってほしい職業があるかどうか聞いたところ、「ある」と回答したのは4人に1人(23.1%)。6割近く(58.2%)は「子どもが希望する職業なら何でもよい」と回答した。やはりみえてくるのは物わかりがよい保護者の姿である。

希望する職業としては「公務員」「教師」「看護師」など、子どもの回答と同様、資格を必要とし安定した職業が上位を占める。フリーコメントをみると、どの職種についても子ども以上に「安定」「就職に困らない」といった言葉が目立つ。

Q. 保護者には子どもになってほしい職業があるか



子どもに希望する職業(全体)

1	公務員	25.3%
2	教師	10.1
	看護師	10.1
4	保育士	6.3
	医療関係	6.3
6	薬剤師	5.1
7	栄養士・管理栄養士	3.8
	自営業	3.8
9	消防士	2.5
	福祉関係	2.5
	医師	2.5
	理学療法士	2.5

どうしてその職業に就かせたいのか(自由記述から)

- ・公務員・・・「長く勤めて安定した生活を送ってほしい」(神奈川・普通、母親) / 「収入が安定している。失業することがない」(山形・専門、母親) / 「公務員には倒産はないだろう」(宮崎・専門、母親)
- ・教師・・・「安定した仕事だと思う」(岩手・専門、母親) / 「社会的地位がある。安定している。子どもに向いているようだ」(岡山・普通、母親)
- ・看護師・・・「本人が希望しているので」(岩手・普通、母親) / 「一生涯、続けられる仕事に就いてほしいので」(大分・普通、母親) / 「自分の職業も看護師であり、資格を持っていると将来苦労しなくてすむ」(鹿児島・普通、母親) / 「結婚して、再就職する時、必ず仕事に就けそうなので」(北海道・普通、母親)
- ・医師・・・「自分になりたかった」(普通・福井、母親)
- ・医療関係・・・「やりがい・社会的重要性・就職に有利」(長野・普通、父親) / 「他の職業に比べれば就職口が多く、安定している」(大分・普通、母親) / 「これからの時代に必要」(福井・総合、母親)
- ・理学療法士・・・「これから需要が多くなると思う」(北海道・普通、母親)
- ・薬剤師・・・「この資格があれば一生、就職に困らないから」(群馬・普通、母親)
- ・資格のある職業・・・「不況の時代なので少しでも手に職を持ってほしいと強く思う」(岐阜・普通、母親)

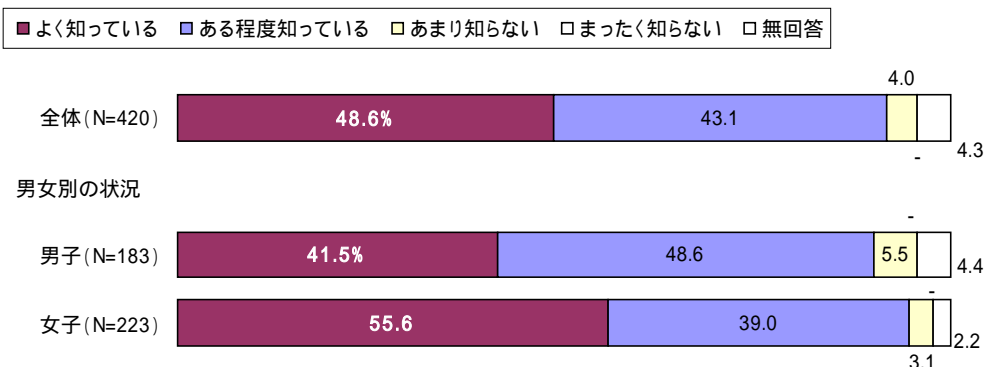
4. 保護者の職業の認知度

保護者の職業について「知っている」高校生は9割以上。
 「話してもわからない」「おもしろい話ではない」と仕事のことを話さない父親は2割弱。

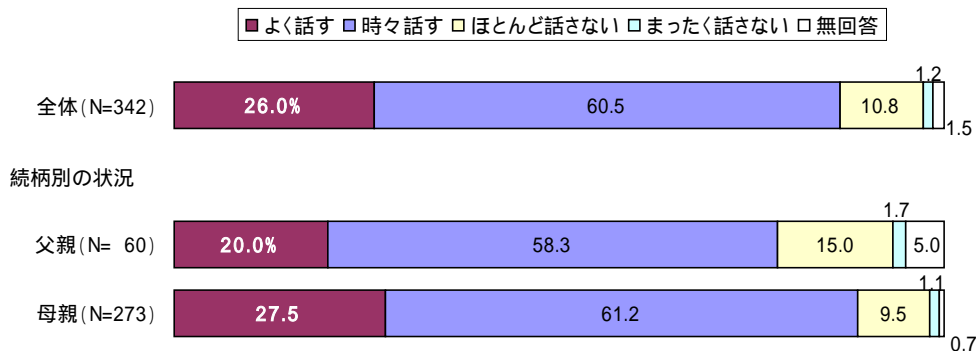
高校生に対して、保護者の職業について知っているかどうか聞いたところ、48.6%が「よく知っている」と回答した。「ある程度知っている」を加えると91.7%に達する。男女別にみると、「よく知っている」の割合が多いのは女子(55.6%)。男子の41.5%を14.1ポイント上回る。

一方、保護者のほうも父親より母親のほうがよく話している。父親のなかには「ほとんど」あるいは「まったく」話さない人も16.7%いる。話さない理由としては「話してもわからない部分が多い」「楽しいことばかりではないし、嫌なことは聞かせたくない」「子どもが希望する職種と親の職種が違いすぎる」などが挙げられている。

Q. 高校生は保護者の職業を知っているか



Q. 保護者は自分の仕事のことを子どもに話しているのか



子どもに仕事の話をしていないのはどうしてか(自由記述から)

「仕事の話をしてよく理解できないと思う」(宮崎・専門、父親) / 「楽しいことばかりではないし、いやなことは聞かせたくない」(青森・普通、母親) / 「漁業をしており、あまりおもしろい話ではない」(岩手・専門、母親) / 「自営業なので、親の仕事を見ていると思う。話をすることもあまりない」(秋田・普通、父親) / 「子どもが関心を示さない」(宮城・普通、母親) / 「あまり将来性のない仕事で、夫も後を継いでほしいと思っていない」(静岡・専門、母親) / 「子どもが希望する職種と親の職種が違いすぎる」(徳島・専門、父親) / 「話してもおもしろくない」(鹿児島・普通、母親) / 「私自身主人の仕事をよく理解していない。主人もあまり話さない」(鹿児島・普通、母親)

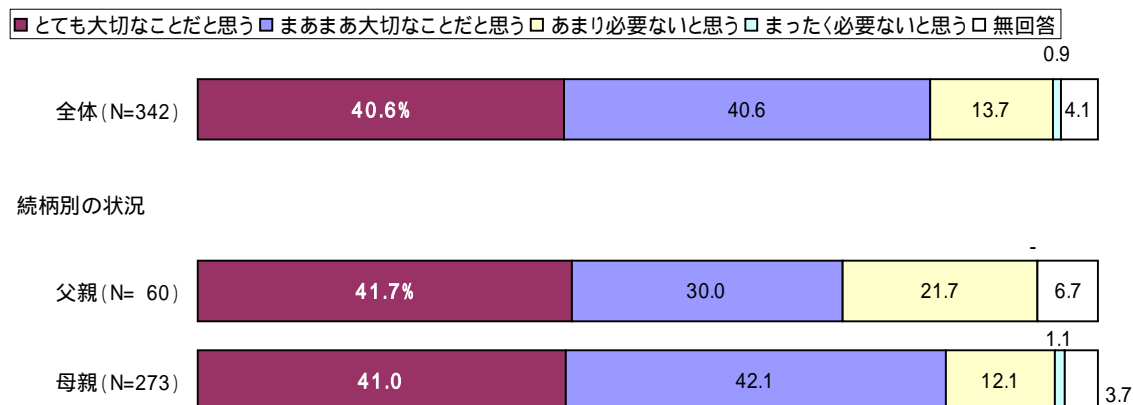
5. ジョブシャドウへの賛成度

親の仕事を子どもたちに知らせたり見せたりすることについて「大切」と考える保護者が8割以上。「あまり見せたくない仕事だから」不必要という保護者も。

子どもたちに職場や仕事ぶりを見学させる「ジョブシャドウ」のような機会を設けて親の仕事を知らせたり、見せたりすることについては、81.2%が「とても」もしくは「まあまあ」大切なことだと思うと回答した。ここでも、父親より母親のほうが積極的で、大切なことと考える人の割合は父親の71.7%に対して母親は83.1%となっている。

賛成の理由としては、「大人が一生懸命頑張っているから今の自分たちが生活できているんだということを知ってほしい」「どんな仕事でも、やりがいがあり、同時に大変だということを知ってほしい」。一方、不必要とする理由としては「数時間見学しただけではよくわからない」「あまり見せたくない仕事だから」などがあった。

Q. 保護者はジョブシャドウをどう思っているのか



親の仕事を知らせたり、みせたりする機会を設けることについて(自由記述から)

・賛成

「大人が一生懸命頑張っているから今の自分たちが生活できているんだということを知ってほしい」(青森・専門、父親) / 「どんな仕事でも、やりがいがあり、同時に大変だということを知ってほしい」(神奈川・普通、母親) / 「働くことの大切さや大変さ、お金をかせぐことの大変さをわかってほしい」(石川・普通、母親) / 「進路選択に役立つだけでなく、自分の人生を考えることにつながると思う」(静岡・専門、母親) / 「そうした機会がなければ、生涯親の仕事をしている姿を想像することもできないのではないか」(島根・普通、母親) / 「職場は、親としてではなく人間として接することのできる場だから」(長野・普通、母親) / 「仕事に対する姿勢や家庭を築くうえでの心構えをみせたい」(鹿児島・普通、父親) / 「具体的に仕事ぶりを見せることで、仕事に対する甘い考えがなくなるのではないかと思います」(熊本・普通、母親)

・反対

「親の仕事を見せることより、多くの会社、職場を見学したほうが良い」(岩手・専門、父親) / 「数時間見学しただけではよくわからないと思う」(山梨・普通、母親) / 「子どものやりたい仕事ならば見学させたほうが良いと思うが、違う場合は必要ないと思う」(新潟・専門、母親) / 「子どもには子どもの考えや思いがある。別に親の職業は関係ないと思う」(滋賀・普通、母親) / 「あまり見せたくない仕事だから」(大阪・総合、母親)

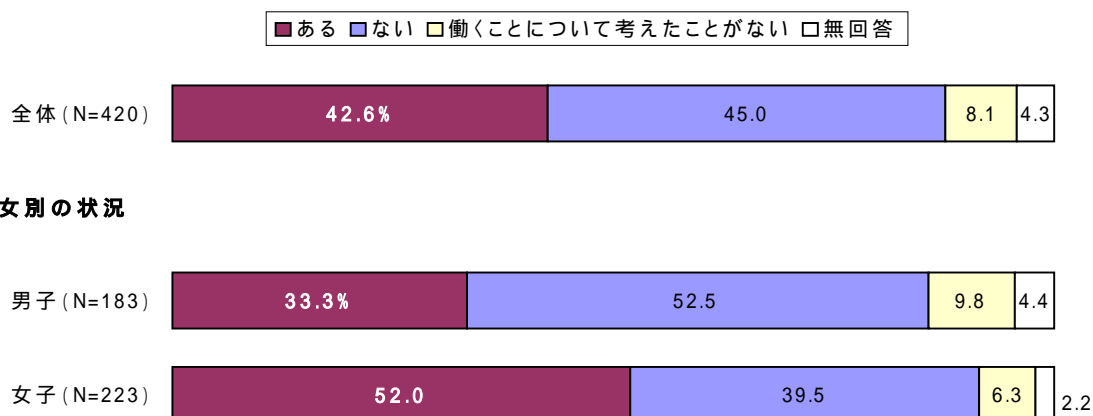
6. 働くことへの気がかり

**将来働くことについて気がかりなことが「ある」高校生は4割超。
「こんな自分でやっていけるか」自己の能力、未知の世界へ不安。**

将来働くことについて何か気がかりなことはあるのかという質問に対しては、42.6%が「ある」と回答した。男女別にみると、心配事を抱える高校生は男子(33.3%)より女子(52.0%)に多い。

具体的に気がかりな点を見てみると、「自分が社会に出て、お金を稼いで生活していくことができるのか」「会社に必要な人材になれるかどうか」「辛いことがあったとき、投げ出さないでちゃんとできるか」など、自分の能力や未知の世界への不安をあげている高校生が多い。「公務員の採用の人数が減らされている」「不景気なので定年まで働くことができるか」など現在の雇用情勢や経済動向について心配する高校生も少なくない。このほか、女子生徒のなかには「男女格差はないのか」「結婚したあと、家事との両立ができるかどうか」といった女性特有の悩みもいくつか挙がっている。

Q. 高校生は将来働くことについて気がかりなことはあるか



将来働くにあたって気がかりな点(自由記述から)

・自己の能力、未知の世界への不安
「こんな自分でも社会に出て、お金を稼いで生活していくことができるのか」(長野・普通、女子) / 「ちゃんと就職できるのか。その仕事をやっていけるのか」(三重・総合、女子) / 「社会のことを全然知らないのに、このまま社会に出ていいのか」(三重・総合、女子) / 「会社に必要な人材になれるのかどうか」(長崎・専門、男子) / 「自分がしたいというだけのことで、将来生活していけるだけの仕事ができるかということ」(福井・専門、女子) / 「自分はちゃんと世間に対応できるのか。辛いことがあった時、投げ出さないでちゃんとできるか」(青森・専門、女子) / 「最初は働くことも楽しいと思うだろうが、それをずっと続けていくという自信がない」(徳島・普通、女子)

・経済情勢・雇用情勢
「だんだんと公務員の採用の人数が減らされてきているから」(新潟・専門、男子) / 「今は不景気なので定年まで働くことができるか不安」(岩手・専門、女子) / 「リストラ、会社の倒産。会社に入っても安心してはいられない」(高知・普通、女子) / 「今は教師になることが難しい。大学を出ても職につけるか心配」(福井・専門、女子)

・男女格差
「結婚したあと、家事との両立ができるかどうか」(滋賀・普通、女子) / 「お茶くみとかやらされそう。男女格差はないのだろうか」(東京・普通、女子)

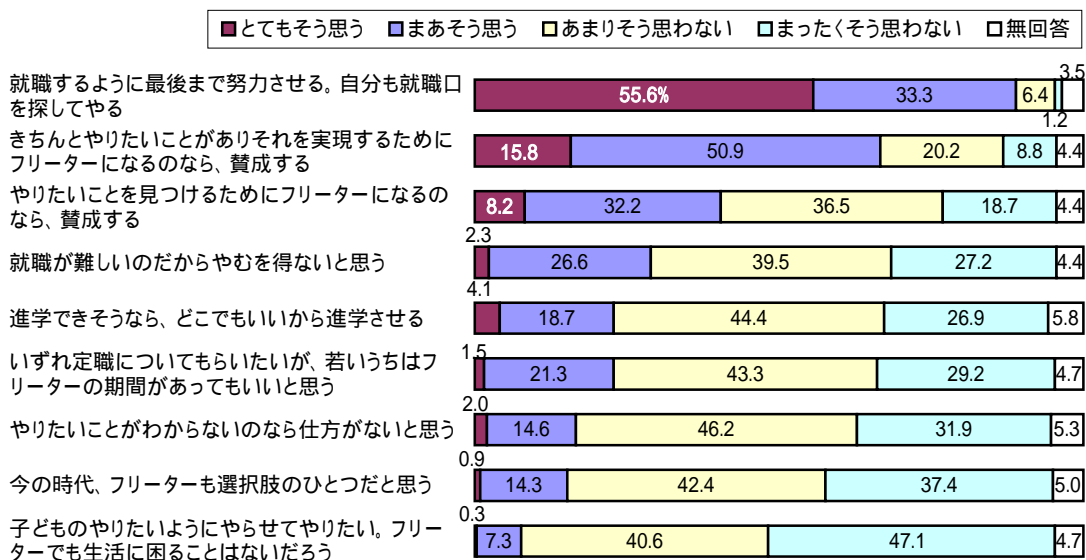
7. 保護者のフリーター観

**基本反対。「就職するように最後まで努力させる」が9割。
「やりたいことがある」「やりたいことを見つける」といわれれば、容認の傾向も。**

保護者に対して、自分の子どもがフリーターを希望したらどうするかを聞いたところ、「就職するように最後まで努力させる。自分も就職口を探してやる」と、「まあそう思う」も含め88.9%までが回答した。この回答からは強硬に反対する意志がみえる。フリーコメントをみても、「要は“臨時雇い”。それが、あたかもひとつの新しいスタイルであるかのように扱われているだけだ。決して自分の子どもにはさせない」「努力することからの逃げ道になるのでは、と考える」など反対意見が目立つ。

一方で、「きちんとやりたいことがあり、それを実現するためにフリーターになるのなら、賛成する」(66.7%)、「やりたいことを見つけるためにフリーターになるのなら、賛成する」(40.4%)というように容認する姿勢もみせる。この調査ではフリーター希望の高校生がほとんどいないことを考えると、一般論としてはフリーターに反対だが、子どもが「やりたいことがある」「やりたいことを見つける」というフリーターになるといえば、それを認めてしまうかもしれないという可能性が浮かび上がってくる。

Q. 子どもがフリーターを希望したら保護者はどうするか



子どもがフリーターを希望した場合の保護者の考え(自由記述から)

・反対

「フリーターという言葉自体が嫌いだ。不定職者をかっこ良く言わないでもらいたい」(静岡・専門、母親) / 「フリーターでいる間に就職への意欲がなくなりそうで怖い」(福井・普通、母親) / 「フリーターという言葉が嫌い。責任という文字が見えてこないから」(宮崎・専門、母親) / 「フリーターは職業ではない」(岩手・普通、母親) / 「要は“臨時雇い”。それが、あたかもひとつの新しいスタイルであるかのように扱われているだけだ。決して自分の子どもにはさせない」(和歌山・専門、父親) / 「絶対にならないでほしい。高校卒業までに何か夢や目標を持ってほしい」(愛媛・普通、母親) / 「男女関係なく将来は自立しなければならない。家族を持ち、生活するには何が必要か考えれば、フリーターでいることには賛成できるはずがない」(岩手・専門、母親) / 「努力することからの逃げ道になるのでは、と考える」(愛知・普通、父親)

・賛成 条件付き賛成

「仕事が見つからないのなら、何もしないよりは何の仕事でも経験になると思う」(大分・普通、母親) / 「仕事もせず家でブラブラしているくらいならフリーターでもOK」(岐阜・普通、母親) / 「自分で独立して生活し、目的を持っているなら、自由にさせる」(岩手・普通、父親) / 「将来定職に就くためのフリーターならば構わない」(長崎・専門、父親) / 「やりたいことのためのフリーターなら、本人がしっかり考えて結論を出した答えだろうから応援してやりたい」(長崎・専門、母親) / 「フリーターでも何かの目標があって希望するなら、それはそれでいいと思う。それをきっかけに定職につけることもなくはないと思う」(青森・専門、母親) / 「いいかげんな気持ちでフリーターになるのでは困る。しかし、みんなが行くからとか、入れるところならどこでもいいという気持ちでの進学も後悔するだけではないのか」(福井・専門、母親)

進路観

1. 進路のことを考えるときの気持ち

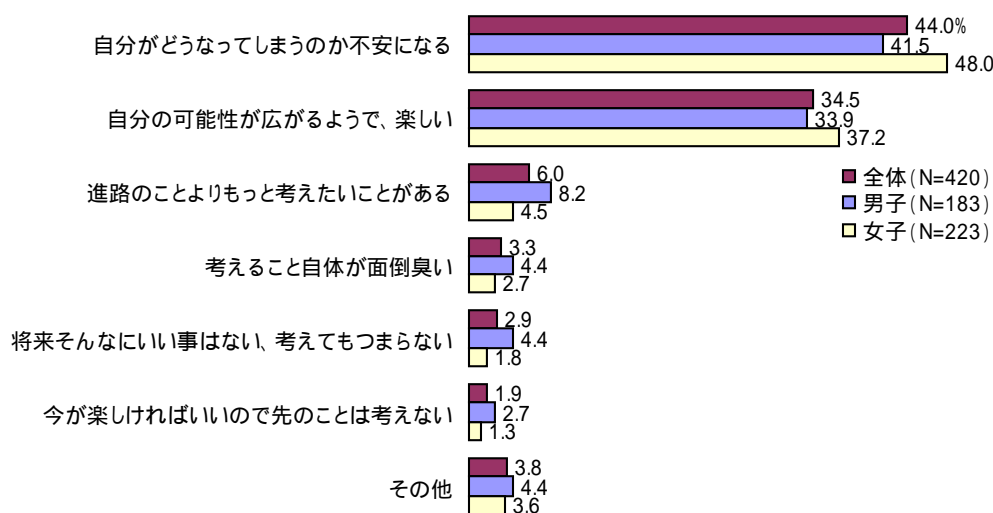
自分の進路を考えると「不安になる」高校生が44%。
不安のなかみは「自分が通用するのか」「自分の選択は誤りではないか」。

進路を考えるとときの気持ちとしては、「自分がどうなってしまうのか不安になる」(44.0%)、もしくは「自分の可能性が広がるようで、楽しい」(34.5%)のいずれかに分かれた。「考えること自体が面倒臭い」「考えてもつまらない」「先のことは考えない」という高校生は非常に少ない。普段の言動がどうであろうと、実は多くの高校生が自分の進路に対しては真剣に向き合っていると考えるべきだろう。

進路のことを考えるときの気持ちと保護者との関係の相関関係をみてみると、保護者と話をしない高校生より話をする高校生のほうが、また、保護者が頼りにならないという高校生より頼りになるという高校生のほうが、「楽しい」と感じていることがわかる。親子関係と進路観との微妙な相関が垣間見える。

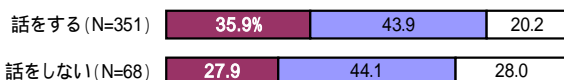
進路に関して気がかりなこととしては「自分の考えている道に進んでもどうなるのか」「間違っただけの選択をしているような気がする」など、出した結論に対する不安感が目立つ。また、「自分はどれだけ通用するのか」「働くことができるのか」など、社会に出て行くことへの自信のなさが述べられている。

Q. 進路を考えると、高校生はどんな気持ちになるのか(単一回答)



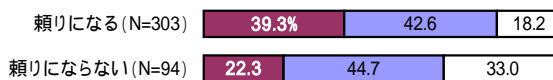
保護者との会話頻度と「気持ち」の関係

■ 自分の可能性が広がるようで、楽しい
■ 自分の可能性が広がるようで、楽しい
■ 自分の可能性が広がるようで、楽しい
□ その他・無回答



保護者への信頼度と「気持ち」の関係

■ 自分の可能性が広がるようで、楽しい
■ 自分の可能性が広がるようで、楽しい
■ 自分の可能性が広がるようで、楽しい
□ その他・無回答



進路選択に関して気がかりなこと(自由記述から)

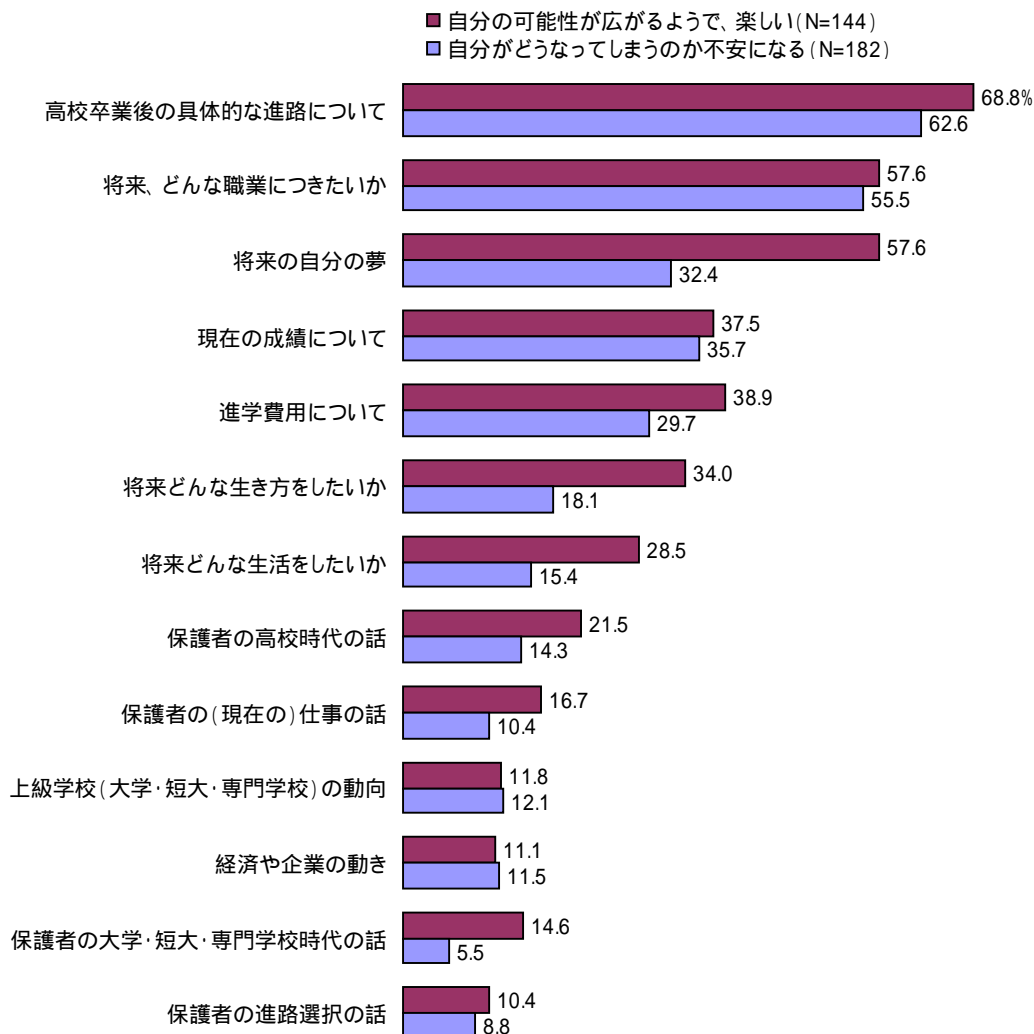
「この先、自分の考えている道に進んでもどうなるのか想像もつかず不安だ」(北海道・普通、女子) / 「大学を卒業したからといって就職できるかわからない」(青森・普通、男子) / 「進学にかかるお金がすごいので、その後の家の経済的なことが心配でたまらない」(青森・専門、女子) / 「間違っただけの選択をしているような気がする」(岩手・専門、男子) / 「進学したとしても、その先どうしていいかわからない」(山梨・普通、女子) / 「やりたいことが見つからない」(東京・普通、女子) / 「自分は社会にどれだけ通用し、どれだけ必要とされるか」(石川・普通、男子) / 「“好き”だけでは世の中で通用しないのではないか」(福井・専門、女子) / 「僕にもしっかり働くことができるのか」(岐阜・普通、男子) / 「やりたいことが一杯ある」(和歌山・専門、男子) / 「本当に自分がその道に進みたいのか、わからなくなるときがある」(岡山・普通、女子)

2. 進路を考えたときの気持ちと保護者との会話内容の関係

保護者と先々の大きなテーマを話し合っている高校生は、進路のことを考えるとき「楽しい」。「不安になる」という高校生は現実的なテーマ、目の前のテーマが中心。

進路のことを考えるときの気持ちと保護者との会話内容には相関が見られた。「自分の可能性が広がるようで、楽しい」と感じている高校生に目立って多いのは「将来の自分の夢」「将来どんな生き方をしたいか」「将来どんな生活をしたいか」など先々の大きなテーマ。「保護者の高校時代の話」「保護者の仕事の話」「保護者の大学・短大・専門学校時代の話」など保護者自身を話題にしているケースでも比較的多い。「どんな職業に就きたいか」「現在の成績について」「上級学校の動向」「経済や企業の動き」など現実的なテーマ、目の前のテーマは、楽しいと感じる高校生も不安と感じる高校生も、保護者と話しているわけだが、さらにその先についての会話量が、高校生の気持ちに影響を与えているようだ。

Q. 保護者との「会話内容」は進路を考える気持ちに影響を与えるか(複数回答)



3. 子どもの進路に対する保護者の考え方

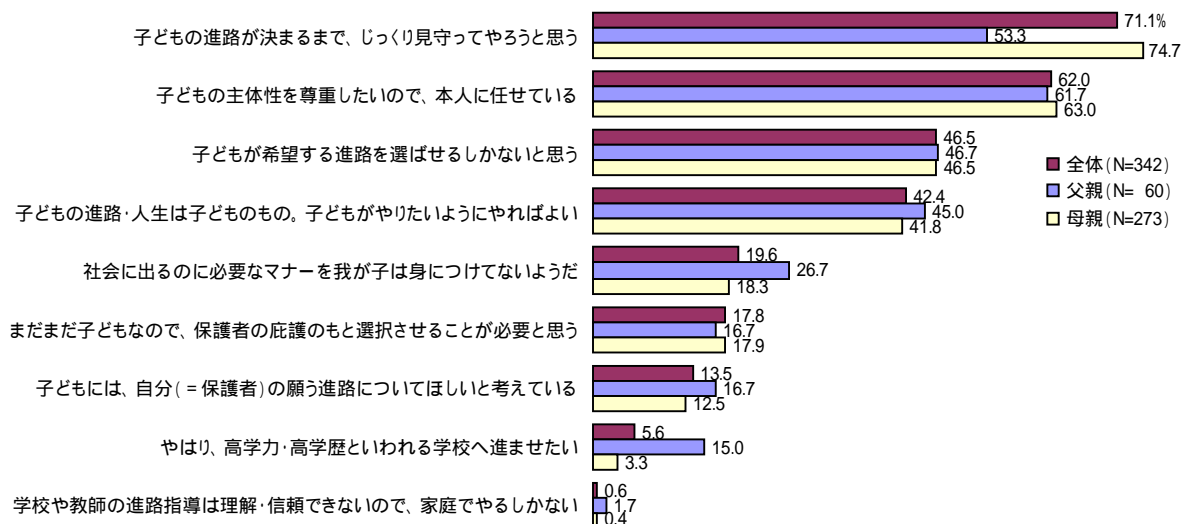
「子どもの進路が決まるまで、じっくり見守る」が7割で最多。コントロールを望むのは15%前後。子どもの自由に任せ、主体性を尊重するタイプの保護者ほど子どもからの信頼度が高い。

子どもの進路を考える際の保護者のスタンスとしては、「子どもの進路が決まるまで、じっくり見守ってやろうと思う」が71.1%で最も多い。以下、「子どもの主体性を尊重したいので、本人に任せている」(62.0%)、「子どもが希望する進路を選ばせるしかない」(46.5%)、「子どもがやりたいようにやればよい」(42.4%)と続く。「保護者の庇護のもと選択させることが必要」(17.8%)、「自分(=保護者)の願う進路についてほしい」(13.5%)など自分がコントロールすることを望む保護者は15%前後と少ない。

父親と母親とでは若干考え方が異なる。「主体性を尊重し本人に任せる」のが父親、「じっくり見守ってやる」のが母親である。また、「自分の願う進路についてほしい」「高学力・高学歴といわれる学校へ進ませたい」と願っているのは母親より父親に多い。

保護者の考え方と信頼度との相関関係をみると(表)、子どもの自由に任せ、主体性を尊重するタイプの保護者ほど子どもからの信頼度が高いことがわかる。また、現状でこのタイプの保護者が多く、そうした保護者の信頼度が高いということは、今後もこのタイプの保護者がさらに増えていくと予想することもできるだろう。

Q. 保護者は子どもの進路についてどう考えているのか(3つまで回答)



保護者のスタンスと信頼度との相関

	なとも頼りに	にある程度頼り	なあまりない頼りに	にまったくない頼り	頼もつりてれないが	信頼・計	非信頼・計
子供の進路が決まるまで、じっくり見守ってやろうと思う	18.8	56.2	17.4	3.6	3.1	75.0	21.0
子供が希望する進路を選ばせるしかないと思う	18.2	56.8	14.2	3.4	6.1	75.0	17.6
子どもの主体性を尊重したいので、本人に任せている	21.4	50.5	18.4	4.6	5.1	71.9	23.0
子どもの進路・人生は子どものもの。子どもがやりたいようにやればよい	23.9	47.8	19.4	4.5	4.5	71.6	23.9
社会に出るのに必要なマナーを我が子は身につけてないようだ	18.0	52.5	18.0	4.9	4.9	70.5	23.0
まだまだ子どもなので、保護者の庇護のもと選択させることが必要と思う	13.8	53.4	25.9	1.7	5.2	67.2	27.6
子どもには、自分(=保護者)の願う進路についてほしいと考えている	19.0	42.9	26.2	2.4	9.5	61.9	28.6
やはり、高学力・高学歴といわれる学校へ進ませたい	16.7	44.4	22.2	-	11.1	61.1	22.2

・未来社会観

1. 実力主義社会に対する意識

高校生、保護者ともに大半が「個人の力が問われる時代」になっていることを認識。

高校生や保護者は日本がどのような社会になると思っているのか。まず、高校生について1999年の調査と比較しながらみると、Aの「実力主義社会」に対する意識が大きく変わったことがわかる。前回調査では「個人の能力いかんで活躍のチャンスがある」と前向きに考える高校生が56.5%いたが、今回は30.7%にまで減り、「競争に勝たないと生き残れない」と厳しく受け止める高校生が34.9%から53.3%に増えた。また、BやCについてみると、99年よりもわずかながら学歴重視、寄らば大樹の陰的な考え方をしている高校生が増えている。もっとも、そうした高校生は数的には少なく、大半の生徒が「個人の力が問われる時代」になっていることを認識している。

保護者はさらにそれを強く認識している。有名大学を卒業したり、大企業に勤めることが幸せにつながると考える人はほとんどおらず、9割が「どんなときにも通用する実力を身につけることが必要」としている。

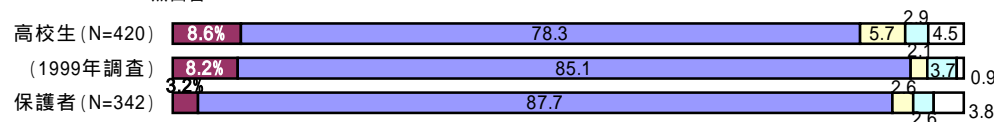
A. 「実力主義社会」に対する意識

- これからの社会は個人の能力いかんで活躍のチャンスのある社会だ
- これからの社会は競争が激化しそれに勝たないと生き残れない厳しい社会だ
- 聞いたことや考えたことがないので分からない
- その他
- 無回答



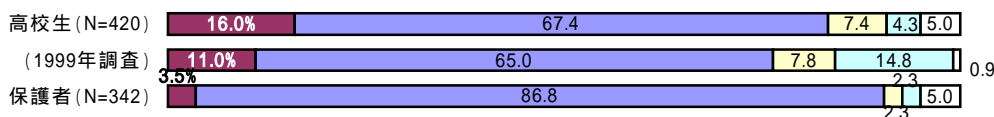
B. 社会における「学歴」の価値

- これからの社会は難関大学・有名大学卒であることがますます価値を増す
- これからの社会はどの大学・学校を出たかよりも何を学んだか、何を身につけたかが価値を持つ
- 聞いたことや考えたことがないので分からない
- その他
- 無回答



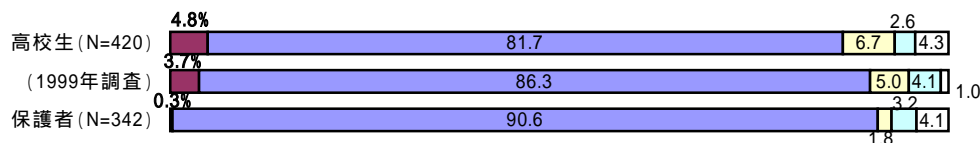
C. 「大企業」か「どこでも通用する力」か

- これからの社会もやはり大企業・有名会社に勤めることが安定や幸せにつながる
- これからの社会では会社などが違って通用する力を身につけることが安定や幸せにつながる
- 聞いたことや考えたことがないので分からない
- その他
- 無回答



D. 「リストラ社会」に対する意識

- これからの社会は突然の解雇や倒産があるのでいくら真面目に働いていてもつまらない
- これからの社会は突然の解雇や倒産があるのでどんなときにも通用する実力を身につけることが必要だ
- 聞いたことや考えたことがないので分からない
- その他
- 無回答



高校生については1999年に行った「社会観と進路観調査1999」のデータを並べて比較した。

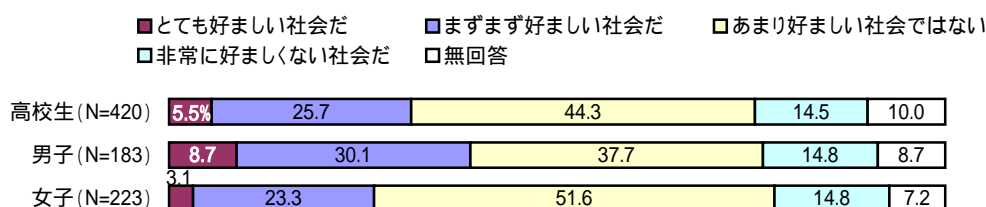
2. 未来社会は好ましいか

「個人の力が問われる時代」を好ましい社会と考えているのは高校生の31.2%。
保護者も7割近くが自分の子どもにとっては好ましくないと考えている。

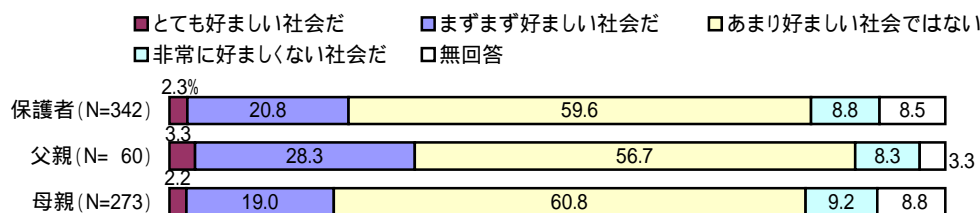
高校生も保護者も「個人の力が問われる時代」の到来は認識しているものの、そうした未来が自分にとって、あるいは自分の子どもにとって好ましい社会であるとは必ずしも思っていない。高校生の場合、多少なりとも好ましい社会と考えている高校生は31.2%。58.8%が好ましくないと答えた。保護者の場合、好ましいと考えているのは23.1%とさらに少なく、7割近く(68.4%)が好ましくないと考えている。

好ましくない理由として高校生に目立ったのは「実力主義社会そのものは好ましいが、その実力が自分にはない」というもの。保護者のなかにも「子どもが実力を身につけられるか心配」と、自分の子どもがその社会でやっていけるかどうかを気にかける人が少なくない。「まじめに働いていれば、ある程度能力が低くても認められる社会が良い」というコメントもあった。また、「頑張ってもリストラがあるのが現状」「努力したところで実るとは限らない」といったように、現在の経済状況があまりに厳しく、思い通りには行かないだろうとみている保護者も少なくない。

Q. 未来社会は高校生にとって好ましい社会か(高校生へ)



Q. 未来社会は自分の子どもにとって好ましい社会か(保護者へ)



高校生は未来社会をどうみているのか(自由記述から)

・好ましい社会だ

「頑張れば認められそうだから」(新潟・専門、女子) / 「自分の得意なことや身につけたものを生かせばうまくやっていける」(福井・専門、女子) / 「実力さえあれば誰にでもチャンスはあるのだからやる気が出る」(静岡・専門、男子) / 「実力のある人が正当に評価されることは、社会の発展につながる」(京都・普通、男子)

・好ましい社会ではない

「もっと人柄などもみてほしい」(青森・専門、男子) / 「力があれば若くともどんどん前に出られるが、力がなくて生き残れない」(石川・普通、男子) / 「自分にそんな力がつかどうかわからない」(福井・専門、女子) / 「自分は能力のない人間なので、実力社会になったら生きていけないかもしれない」(高知・普通、女子)

保護者は未来社会をどうみているのか(自由記述から)

・好ましい社会だ

「好むと好まざるにかかわらずこのような社会となっている。子どもも自立してやっていくと思う」(高知・普通、父親) / 「学歴を気にせず自分の実力でやっていけるのではないか」(山口・専門、母親) / 「長所を生かせる。または伸ばすことができる」(岩手・普通、母親) / 「努力が報われる。チャンスがつかめる社会は子どもにとってもやる気が出る」(大分・普通、母親)

・好ましい社会ではない

「学歴があってもなくても、たとえ努力して頑張ってもリストラがあるのが現状。子どもはどうなるのだろうか」と不安に思う」(岐阜・普通、母親) / 「真面目に働きたくても就職できない。これでは力を発揮することができない」(山口・専門、母親) / 「まじめに働いていれば、ある程度能力が低くても認められる社会が良い」(石川・普通、母親) / 「子どもが、そのような実力を身につけることができるか不安」(岩手・専門、父親)

人生観

1. 人生において大切にしたいもの

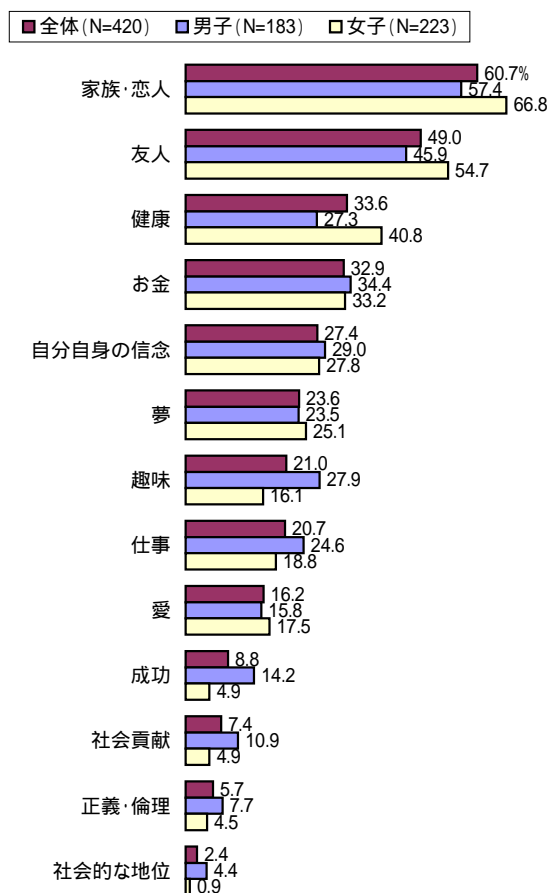
高校生が大切にしたいのは「家族・恋人」「友人」「健康」。「夢」は6位、「仕事」は8位。
保護者が大切にしてほしいと伝えているのは「健康」「自分自身の信念」「家族・恋人」。

人生において何を大切にしていきたいかを選択肢から3つ選んでもらったところ、高校生は「家族・恋人」(60.7%)、「友人」(49.0%)、「健康」(33.6%)の順で挙げた。「夢」は6番目、「仕事」は8番目だ。男女別に見ると、男子は「健康」より「お金」「自分自身の信念」「趣味」を上位に挙げた。「仕事」「成功」「社会貢献」なども女子より男子のほうが大切にしたいと考えている。

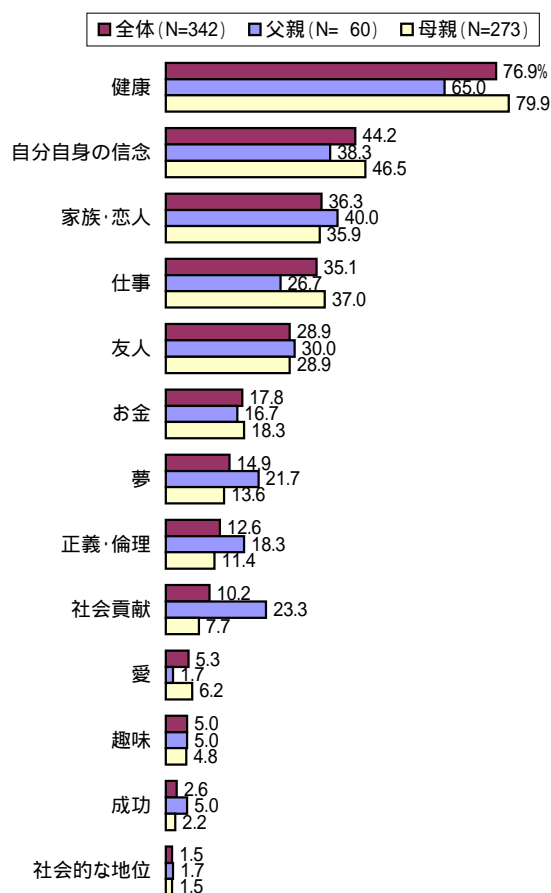
保護者が子どもに大切だと伝えていると思っているものの上位3つ「健康」「自分自身の信念」「家族・恋人」のうち、「家族・恋人」「健康」の2つは、子どももあげており、親の気持ちはきちんと伝わっているようだ。

一方で親が6番目に上げた「お金」が、子どもでは4番目、3割が大切なものとして上げられており、消費社会に育った高校生世代の特徴と言えるかもしれない。

Q. 人生で大切にしたいものは(3つまで)



Q. 「人生で大切なこと」として伝えているものは(3つまで)



2. 夢を実現するために必要なもの

高校生、保護者ともに「個人の努力」が重要だと考えている。もっともその割合は、これから社会に出て行く高校生のほうが若干低め。

夢を実現するために最も重要なものを選択肢のなかから順番に選択してもらったところ、高校生、保護者ともに「個人の努力」を最上位に挙げた。2位以下も、「個人の才能」「運やチャンス」「学歴」「保護者の社会的地位や経済力、人脈」の順で一致している。

ただし、両者を見比べると、「個人の努力」はともに突出しているものの、高校生の数値(63.3%)は保護者(73.4%)ほど高くなく、「個人の才能」など2位以下の項目の数値が保護者より少しずつ高いことがわかる。成功や失敗、挫折の実体験が少なく、これから社会に出て行く高校生のほうが、実体験の豊富な保護者よりも「才能」や「運」、「学歴」などを重要視しているという傾向が浮かび上がる。特に男子の場合、才能や運、学歴、保護者の社会的地位や経済力などが最も重要と考えている者が合計38.3%いる。

Q. 夢を実現するために最も重要なことは(単一回答)

